

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2014 年 9 月

「聖書研究」「わたしたちの生活様式を通してキリストを映す」

「第三天使のメッセージ『第三天使と印する働き』」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「聖書研究」

4

イエスの聖書研究

朝のマナ

「わたしたちの生活様式を通してキリストを映す」

9

キリストを映して

現代の真理

「第三天使と印する働き」

70

三重のメッセージ - 第三天使のメッセージ -

力を得るための食事

「えごまのしょうゆ漬け」

80

お話コーナー

「混乱とは倒れること」

82

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2014 年 8 月 31 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover and
on page 7

Printed in Japan

「この町には、わたしの民が大ぜいいる」

人間の力ではいやすことのできない悲しみが、この世界に起こる時が、近づいている。神の霊が取り去られつつある。海にも陸地にも、次々と急速に災害が起こる。地震、大竜巻、火事、洪水による破壊、人命財産の大損害などを、なんと度々耳にすることであろう。一見、こうした災害は、人間の力を超えた自然の猛威が突発的に起こしたものと思われるであろう。しかし、その中であって、神のみこころを悟ることができるのである。神は、こうした方法によって、人々に、彼らの危険を自覚させようとしておられるのである。

大都会における神の使命者たちは、救いのよきおとずれを伝える一方において、当面しなければならない罪惡、不正、墮落などについて失望してはならないのである。主は、罪惡に満ちたコリントにおいて使徒パウロにお与えになったのと同じ言葉をもって、こうしたすべての働き人を励まされるのである。「恐れるな。語りつづけよ、黙っているな。あなたには、わたしがついている。だれもあなたを襲って、危害を加えるようなことはない。この町には、わたしの民が大ぜいいる」(使徒行伝 18:9,10)。

救霊の働きに従事している者は、多くの者が神のみ言葉の中の神の勧告に耳を傾けないであろうが、全世界が、光と真理、長く耐え忍ばれる救い主の招きを拒むのではないことを忘れてはならない。暴力と犯罪に満ちたどの町においても、正しく教えられるならば、イエスの弟子になることができるものが多くいるのである。このようにして、幾千の人々に救いの真理が伝えられて、キリストを個人的救い主として受け入れるようになるのである。(国と指導者上巻 244)

キリストの來臨はわたしたちが始め信じた時よりも近づいている。大争闘はその終結に近づいている。神のさばきは間近である。彼らは嚴肅な警告のうちに語って述べている、「だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」(マタイ 24:44)。……

わたしたちはこの地上歴史の終幕に生存している。預言は急速に成就している。恩恵期間は急速に過ぎ去ろうとしている。わたしたちには無駄にする時間は、一瞬たりともない。……

主はまもなく來られる。であるから、わたしたちはこのお方に平和のうちにお会いする準備をしなければならない。わたしたちの周囲にいる人々に光を与えるためになし得ることはすべてなす決心をしよう。(教会への証 8 巻 252, 253)

「聖書研究」

福音宣伝者（1915 年版）249 ～ 253

魂の救いのために効果的に労したいと願う牧師は、聖書を学ぶ生徒でありまた祈りの人でなければならない。他の人々にみ言葉を教えるようとする者が、自ら聖書研究を怠ることは罪である。彼らの扱っている真理は力強いものであろうか。そうであれば、それらを熟練者として扱いなさい。彼らの考えは明白に力強く提示されるべきである。地上のすべての人で、この時代のためのメッセージを宣布している人々は自分の聖書を理解し、自分の信仰の証拠を徹底的に知り尽くしているべきである。命のみ言葉の知識をもっていない人は、天への道について他の人々に教えようとする資格がない。

聖書はわたしたちの信仰と教理の規則である。思いを活性化させ、知性を強めるのに、神のみ言葉の研究ほど意図されたものはない。他の書物は、聖書の広く高尚にする真理ほど、思想を高め、機能に活力を与える力がない。もし神のみ言葉を研究すべきほどに研究するなら、人はこの時代にめったにみられない思いの広さ、品性の高尚さ、目的の堅固さを持つのである。

講壇に立つ何千もの牧師たちは聖書研究を自分自身に適用しないために、重要不可欠な思いと品性の資質に欠けている。彼らは神のみ言葉の真理の表面的な知識で満足しており、隠された宝を勤勉に探すよりは、あらゆる方法において損失をこうむり続ける方を好むのである。

詩篇記者は「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました」と宣言している（詩篇 119:11）。そしてパウロは

テモテに、「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にとのえられた者になるのである」と記した（テモテ第二 3:16, 17）。

世に命を与える神の命は、そのみ言葉のうちにある。イエスが病を癒し、悪霊を追い出したのはみ言葉によってであった。み言葉によってこのお方は海を鎮め、死人をよみがえらせた。そして人々はこのお方のみ言葉に力があることを証した。このお方は旧約のすべての著者たちに語ってこられたように神のみ言葉を語られた。聖書全体がキリストの表れである。これがわたしたちの唯一の力の源である。

このみ言葉は、活動を抑制することはない。それは良心的な探究者の前に、活動のための通路を開く。それは人を目的もない不活動のままに放置せず、彼らの前にあらゆる目的の中で最高のもの一魂をキリストに勝ち取ること一を置かれる。それは手の中に天への道を照らすともしびを置く。それは無尽蔵の富、すなわちはかりしれない宝について語る。

神のみ言葉は品性の標準である。わたしたちにこのみ言葉を与えることによって、神はわたしたちに救いに不可欠なすべての真理を持たせて下さった。幾千もの人々が命の井戸から水をくみ上げてきたが、その供給は衰えることがない。幾千もの人々が主を自分たちの前に置き、そして眺めることによって同じ姿に変えられてきた。しかし、これらの探究者たちがこれらの壮大にして聖なる主題を使い果たすことはなかった。さらに幾千もの人々が救いの奥義を探究する働きに携わることができる。

働き人がキリストの生涯を研究し、このお方の使命の性質を熟考するとき、一つ一つの新しい探究がそれまで開かれてきたことよりも深く興味あることを明らかにする。主題は無尽蔵である。キリストの受肉、このお方の贖罪の犠

性と仲保の働きの研究は時が続く限り、勤勉な学生の思いに従事させる。そして天においても数え切れない年月の間「偉大なのは、この信心の奥義かな」と叫ぶのである（テモテ第一 3:16）。

わたしたちは第一天使のメッセージ、第二天使のメッセージについて語っている。そして第三天使のメッセージについて何か理解していると思っている。しかし、わたしたちが限られた知識に満足している限り、真理のより明白な見解を得る資格はない。命のみ言葉をつかんでいる人は、聖書を研究し、自分自身の心を探るための時間を取らなければならない。これをなおざりにしては、どのように困窮している魂を助けるべきかがわからない。熱心な祈りとイエスのうちにあるがままの真理を求める研究によって探究する勤勉で謙遜な生徒は、最も確実に報いを受ける。彼は、人間の著者の考えからではなく、知恵と知識の泉なるお方から助けを求める。そして聖なる知的存在者たちの導きの下で、彼は真理のより明白な理解を得るのである。

真理が思いに印象づけられるのは、人間の代理人の権力や力によってではなく、「万軍の主は仰せられる、これは……わたしの霊によるのである」（ゼカリヤ 4:6）。人の働きを成功させるのは、み言葉を説く人の気質や雄弁さではない。パウロが植え、アポロが水をやるが、神が成長させて下さるのである。神のみ言葉に親しく、神のみ旨に従うこと、これが牧師の努力に成功を与えるのである。

神のみ言葉を受け入れる心は、蒸発する池や宝を失う壊れた水かめのようなものではない。尽きることのない流れから山の川が水を受けて岩から岩へと涼しい水しぶきをあげて流れていき、弱った者、渴いている者、重荷を負っている者を元気づけるようなものである。

聖書の真理に親しんでいることは、真理の教師にキリストの代表となる資格を与える。救い主の教えの精神が、彼の教えと祈りに強さと率直さを与える。

それは狭く、命のない証ではない。彼は何度も決まった同じ説教を繰り返したりはしない。なぜなら、彼の思いは絶えざる聖霊の照明に対して開かれているからである。

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があ」とキリストは言われる。生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう。「人を生かすものは霊であって、……わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である」(ヨハネ 6:54, 57, 63)。

もし神のしもべたちが真理についてこれらのみ言葉の意味を知っているなら、永遠の命の要素が牧会に見出されるであろう。単調で味気ない説教はやむであろう。福音の基礎たる真理が新しい光のうちに提示されるであろう。そこには真理の新たな見識と、すべての人が認めることのできる明白さと力とがあるであろう。そのような牧会のもとに座る特権を得た人々は、もし聖霊の感化力に感じる人であれば、新しい命の活性させる力を感じるのである。神の愛の火が、彼らのうちで灯される。彼らの機能は、真理の美しさと大権とを識別するのに鋭くなる。

神のみ言葉を自分の必携の書とする牧師は、絶えず新しい美しさを持った真理を提示する。キリストの御霊が彼に訪れ、神は他の人々を助けるために彼を通して働かれる。聖霊は彼の思いと心を、希望と勇気と聖書に対する思いで満たし、これらはみな彼の指導のもとにいる人々に伝達されるのである。

聖書の中にわたしたちには誤ることのない神の勧告がある。その教えは実践されると、人をどんな義務の立場にもふさわしい者とする。それは毎日魂に語りかける神のみ声である。……聖霊の働きは暗くなった理解力を啓発し、利己的で石のような心を溶かし、反逆的な違反者を征服し、彼を世の墮落した感化力から救うことである。弟子たちのためのキリストの祈りは、「真理によ

って彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」であった。御霊の剣、すなわち神のみ言葉は、罪人の心を刺し通し、それを寸断する。真理の理論が、話し手の魂に及ぼす神聖な感化力を感じられないまま繰り返されるとき、聞いている者には何の力も及ばず、却ってそれは誤謬として拒否され、語る者は魂の損失に対して自らを責任あるものとするのである。

キリストを映して

Reflecting CHRIST



9月 「わたしたちの生活様式を通してキリストを映す」

9月1日

キリストの来臨に備えよ

「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。」(テトス 2:13, 14)

この聖句は福音を信じて公言する多くの者の言葉の中に表されていることとは非常に異なった教訓を教える。わたしたちは今の世の中でまじめに正しく信心深く生き、大いなる神、わたしたちの救主イエス・キリストの栄光に満ちた来臨を待ち望むようにと熱心に勧められている。ある人は、わたしが天の雲に乗ってこられるキリストの個人的な来臨を待ち望むことがわたしたちの義務であると教えるために、わたしの働きに異議を唱えてきた。彼らは「キリストの来臨に関してホワイト夫人が語るのを聞いて、主の日がわたしたちに迫っていると考えるのですか。彼女はこの40年というものと同じ主題を宣布してきたのに、まだ主は来ておられないのです」と述べてきた。

この異議そのものが、キリストご自身のみ言葉に逆らっていると言える。このお方は愛された弟子の口を通して「見よ、わたしはすぐに来る」と仰せになり、ヨハネは「主イエスよ、来たりませ」と応じている。イエスはこれらの言葉をご自分の民への警告と励ましの言葉として語られた。そうであれば、わたしたちはなぜそのみ言葉に注意を払わないのであろうか。主は目を覚ましてご自分を待ち望んでいるところを見られる者は忠実な者であると仰せになった。「わたしの主人は帰りが遅い」と言い、仲間のしもべをたたき始め、酔っ払いと一緒に食べたり飲んだりするのは不忠実なしもべである。

キリストの再臨の正確な時は明らかにされていない。イエスはだれもその日

その時を知らないと言われた。しかし、このお方はまたご自分の来臨のしるしを与え、「すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい」と言われた。このお方は彼らに、ご自分の来臨のしるしがあらわれるとき、「身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから」と命じられた。そして、これらのことを考慮して使徒は次のように記した、「兄弟たちよ。あなたがたは暗やみの中にいないのだから、その日が、盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう。あなたがたはみな光の子であり、昼の子なのである」。わたしたちはキリストの来臨の時を知らないのだから、まじめに信心深くこの世で生活し、「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望」まなければならない。……

このお方の民は、このお方の代表者として、自分たちの特別な特徴を保たなければならない。すべての人になすべき働きがある。もし神と共に働く効果的な働き人になりたければ、富める者は自分の財産を、誉ある者は自分の感化力を、学識ある者は自分の知恵を、貧しい者は自分の徳を捧げるべきである。彼らは自らを神との正しい関係に入れ、自分たちがイエス・キリストのみ顔に輝く神の栄光の光を反射できるようにすべきである。……彼らはきたるべき裁きについて人々に警告しなければならない。人々にキリストを表さなければならない。(サイン・オブ・タイムズ 1889 年 6 月 24 日)

9月2日

キリストにまで成長する

「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない。」(詩篇 16:8)

なにか自分だけでしなければならないことがあると考えている人が多くいる。かれらは、キリストに頼って罪のゆるしを得ていながら、正しい生活を自分の力で送ろうとするのである。しかしそうした努力はみな失敗に終わる。イエスは「わたしから離れては、あなたは何一つできない」と仰せになった。恵みに成長することも、わたしたちの喜びも人のために役だつこともみな、キリストと一つになるか否かにかかっている。恵みに成長するのは、毎日、毎時、かれと交わり、かれにあることによるのである。……

あなたは、自分を神にささげ、全く神のものとなり、神に仕え、神に従い、キリストをあなたの救い主として受け入れたのである。あなたは自分では自分の罪をあがなうことも、心を変えることもできなかった。しかし神に自分をささげ、神がこれをすべてキリストのゆえになしたもうたと信じたのである。信仰によってキリストのものとなったのであるから、また、信仰によってキリストのうちに成長するのである。これは、こちらからも与え、また、神からも受けることである。神のご要求にことごとく従うために、すべて—自分の心も意志も奉仕—を神にささげ、このお方のすべてのご要求に従うために、あなた自身をこのお方にお捧げするのである。そして、服従する力をうけるには、あらゆる祝福に満ちあふれたもうキリストを心に宿し、キリストをあなたの力、義、また永遠の助けとしてうけなければならない。

毎朝、神に自分をささげ、これを最初の務として、次のように祈ろう。「主よ、しもべを全くあなたのものとしてお受け入れください。わたしのすべての計画をあなたのみ前におきます。どうか、しもべをきょうもご用のためにお使いくださ

い。どうか、わたしと共にいましたもうて、すべてのことをあなたにあつてなさせてください」と。これは毎日のことである。毎朝、その日一日、神に献身して、すべての計画をかれにお任せし、摂理のままに実行するなり、中止するなりするのである。こうして、日ごとに生涯を神のみ手にゆだねるとき、次第にあなたの生涯がキリストの生涯に似てくるのである。

キリストにある生涯は、平和な生涯である。感情の興奮はないかも知れないが、いつも変らない平和な信頼をもった生活である。自分に望みがあるのではなく、キリストに望みがあるのである。自分の弱さはキリストの力に、無知はキリストの知恵に、もろさはキリストの持久力と一つになる。すると私たちは自分をながめて自分のことばかりを考えないで、キリストをながめるようになるのである。キリストの愛を瞑想し、その性格の美しさ、完全さを心にとめて考えよう。キリストの自己犠牲、キリストのへりくだり、キリストの純潔と聖潔、またその比類なき愛を魂の瞑想課題としよう。キリストを愛し、キリストにならい、全くキリストに頼ってこそ、わたしたちはキリストのみかたちに変えられるのである。(キリストへの道 92～95)

9月3日

わたしたちの充足は ただキリストのうちにのみある

「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。」(ガラテヤ 6:14)

哀れな嘆願者はすべての自己過信を否定する信仰によって、無限の能力を自分のものとしなければならない。

外見上どんなにりっぱに律法をまもっていても、それは単純な信仰と全的自己否定の代わりにはならない。……ただキリストが働いてくださることに同意することができるに過ぎない。そうすれば魂は次のように言うようになろう。主よ、わたしの心をお受けください。わたしはこれをささげることはできません。これは、あなたのものです。どうぞきよく保ってください。これを、わたしが保っていることはできません。わたしは弱いのです。そして少しもキリストに似ていません。このようなわたしですが、どうぞお救いください。どうぞ、わたしを練り、形造り、清い聖なるふんい気の中に引き上げて、あなたの豊かな愛の流れが、わたしを通して流れ出るようにしてください。

この自己否定は、クリスチャン生活の出発において行なうばかりでなくて、天に向かって前進するごとに、新たにしなければならないものである。わたしたちの行なう善行は、すべて、わたしたちの外からの力によるものである。であるから、常にはげんで神を仰ぎ、たえず、心をくだいて罪を告白し、神のみに心をひくくする必要がある。わたしたちは、絶えず自己を捨て、キリストにたよることによってのみ、安全に歩くことができる。

わたしたちが、イエスに近づき、主の品性の純潔さを明らかに認めれば認

めるほど、罪がどれほどはなはだしく恐ろしいものであるかをさと、自己を称揚する気持ちにはなれなくなる。清い者として神に認められるほどの人は、自分の善良さを誇ったりはしない。使徒ペテロは、キリストの忠実なしもべとなって、天からの光と力を受ける大いなる光栄に浴した。彼は、キリストの教会の建設に活動的な役割を果たした。しかし、ペテロは、あの不名誉な恐るべき経験を忘れることができなかった。ペテロの罪はゆるされた。しかし、ペテロは自分をつまずかせた品性の弱さに対しては、キリストの恵みによらなければ救われないことを知った。彼は、自分には、何一つ誇り得るものがないことを認めた。

使徒にしても、預言者にしても、自分には罪がないと主張した者は一人もない。神に最も近く生活した人、知りつつ罪を犯すよりは、むしろ生命を犠牲にした人、また、神からの特別の光と力とを与えられた人は、みな、自分たちの性質の罪深いことを告白している。彼らは、肉に信頼をおかず、自分たちの義を誇らず、キリストの義に絶対の信頼をおいた。キリストをながめる者もみな、そうなのである。

クリスチャンの経験が進むにつれて、悔い改めも深まっていく。……そのとき、わたしたちは、口を開いて、自己をほめない。わたしたちの充足は、ただキリストのうちにあることをさとする。(キリストの実物教訓 139 ～ 141)

9月4日

み国でもっとも偉大な者

「この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。」(マタイ 18:4)

弟子たちはちょうどだれが天のみ国で最も偉大な者であるかと論争していた。彼らは同意することができなかった。ある者は栄誉は自分のものであると主張した。他の者は自分だと主張した。弟子たちのうちだれひとり、来るべき出来事の重要性を把握し、今この時の厳肅さを正しく理解することのできる心の正しい状態になかった。彼らは過越の晩餐にあずかる準備ができていなかった。

キリストは彼らを悲しくご覧になった。このお方は彼らの前に試練があることをご存知で、このお方の大きな愛の心は、優しい哀れみと同情のうちに彼らに向けられた。彼らに対するご自分の愛の表れとして、このお方は「手ぬぐいをとって腰に巻き、それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた」。これは彼らすべての者にとって、大きな譴責であった。……

「こうして彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふたたび席にもどって、彼らに言われた、「わたしがあなたがたにしたことがわかるか。あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ」。……

謙遜の儀式によって、わたしたちは印象深い教訓を教えられている。キリストはわたしたちに神のみ前に謙遜に歩むべき必要性と、またこのお方がご自分の御子という賜物によってわたしたちに何をしてくださったかを悟る必要性を示

された。キリストはご自分の弟子たちが最後の晩餐で自分たちに与えられた謙遜についての教訓を決して忘れないことをご存知であった。ご自身がもっとも謙遜な私たちの奉仕を引き受けられることによって、このお方は 12 人に与え得る最も厳しい譴責をお与えになったのである。

マタイ 18 章には、謙遜についてのもう一つの教訓が記録されている。み言葉の中にあるこれらの教訓は、わたしたちの訓告のために与えられている。それらによって益を受けることをなおざりにする人々に言い訳の余地はない。

弟子たちは、「イエスのもとにきて言った、『いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか』。すると、イエスは幼な子と呼ばせ、彼らのまん中に立たせて言われた、『よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである』。』。

多くの人々は、神と共に謙遜に歩むことによって、敵がわたしたちに対して優勢になることのできない場所へ自らの身をおくのだということがわかっていない。……わたしたちが自発的な子どもとして訓練され、律せられるために屈服するときにのみ、神はわたしたちをご自分の栄光のためにお用いになることができるのである。(原稿 102, 1904 年)

9月5日

感化力は幾千もの人々を 祝福することができる

「神に対するあなたがたの信仰のことが言いひろめられたので、これについては何も述べる必要はないほどである。」(テサロニケ第一 1:8)

キリストの一生は、どこまでも限りなく感化を及ぼした。この感化は、キリストを神と全人類家族とに結びつけた。神は、キリストを通して、人間に感化力を与えておられるから、人は自分だけの生活をすることができない。わたしたち個人個人は、神の総合体の一つとして、同胞と結ばれていて、お互いに義務づけられている。わたしたちの幸福は他の人にも関係があるものであるから、だれ一人として、同胞から独立することはできない。各自が、自分は他の人の幸福のために必要であることを感じ、他人の幸福の増進のために努力することを、神は望んでおられる。

人はだれでも他に感化を及ぼすものである。信仰、勇気、希望などの生き生きとした愛のかおりを放つものもあれば、あるいは、不平とわがままのために、重苦しく、冷たく憂うつで、心の中にひそむ罪の毒気を放っているものもある。わたしたちは、だれでも、このように自分のまわりに、一種のふんい気をもっていて、意識的に、または、無意識に、接する人びとに感化を及ぼしているのである。

これは、わたしたちの避けることのできない責任である。わたしたちのことは、行為、服装、態度、あるいは、顔の表情でさえも、感化力を持っている。このようにして及ぼされた感化によって、相手がどれほどよくなるか、またどれほど悪くなっていくか、だれにもわからない。このような刺激はすべて、必ず収穫をもたらす種である。それは、人類世界の長いできごとの連鎖の一つの輪であって、それが、どこまで続いているのかわからない。もしわたしたちが、

自分たちの模範によって、又ひとびとの心の中によい原則を植えつけるのを助長したとすれば、彼らに善を行なう力を与えることになる。彼らはまた彼らで、同じ感化を他の人びとに与え、その人びとはまた他の人びとへと感化を及ぼしていく。こうして、わたしたちが、無意識のうちに及ぼした感化によって、幾千もの人びとが祝福を受けるようになる。

湖水に小石を投げると、波が生じて、次第に広がってついには岸にまで達する。わたしたちの感化もそれと同じで、わたしたちの知識と支配の限界を越えて、祝福かあるいはのろいを与えている。……

真実で無我の信心深い生活の無言のあかしは、どんな人をも感化しないではおかない力を持っている。わたしたちの生活の中に、キリストの品性をあらわすことによって、わたしたちは、救霊の働きをキリストと共にするのである。わたしたちが、キリストと協力できるのは、わたしたちの生活に、キリストの品性をあらわすことによるのみである。そして感化の範囲が広ければ広いほど、それだけ、善をなす範囲も広い。(キリストの実物教訓 314～316)

9月6日

柔和という神聖な美しさを得る

「すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜（柔和）を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう。」（ゼパニヤ 2:3）

キリストの必要を感じ、罪のために悲しみ、苦難の学校でキリストとともにすわった者は、天よりの教師から柔和を学ぶであろう。……

靈感のもとにモーセが、彼は地上におけるもっとも柔和な人であると言ったことは、当時の人々に賞賛とは受けとられなかった。むしろそれはあわれに思われたり、侮られるようなものであった。しかしイエスは、その王国の主要な資格の一つとして柔和をおかれるのである。主ご自身の生涯と品性に、このうとい徳性の神聖な美が現われているのである。……

そのつましい生活のすべての経験を通して、イエスは、王者として尊敬を求めることなく、他の人に仕えることを自分の仕事とする者のように人々の中で生活することに同意された。彼の態度には、少しの偏狭さも、冷酷な厳格さもなかった。世の救い主は、天使の性質よりもっと偉大な性質をもっておられたけれども、そのこうごうしい威厳は、すべての人の心をひきつける柔和と謙そんに結びつけられていた。

イエスはご自分をむなしくされ、このお方がなさるすべてのことにおいて、自己は現れなかった。このお方は万事をご自分のみ父のみ旨に従わせられた。地上におけるご自分の使命を閉じようとしておられたとき、このお方は「わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上でああなたの栄光をあらわしました」と言うことがおできになった（ヨハネ 17:4）。……

わたしたちの平和を破壊するのは自己愛である。自己が生きている間は、

屈辱や侮辱から自己を守ろうといつも見張っていなければならない。しかし自己に死に、わたしたちの命がキリストとともに神の中にかくれるならば、無視されても、軽べつされても、少しも心にとめなくなる。わたしたちは、人の非難に対してつんばとなり、嘲笑、侮辱に対してはめくらとなるのである。「愛は寛容であり、愛は情深い」(コリント第一 13:4)。……

地上にみなもとを持っている幸福は、境遇の変化と同じように変わりやすいものである。しかしキリストの平和は変わらない永続的な平和である。それは人生のどんな境遇にも、この世の財産の額や友人の数によるのでもない。キリストが生きた水の泉であり、彼から得た幸福は決してうせ去ることはないのである。

家庭の中にキリストの柔和があらわされると、家族は幸福になる。それは争いをひきおこさせず、怒った返答をさせない。いらだった感情を柔かくし、やさしさがしみわたって、そのたのしい囲いの中にいるすべての者にそれが感じられる。柔和のあるところはどこでも、地上の家族を天の一大家族の一部とするのである。(祝福の山 16 ～ 20)

9月7日

柔和、魂の飾り

「主はおのが民を喜び、へりくだる者（柔和な者）を勝利（救い）をもって飾られるからである。」（詩篇 149:4）

聖化の最も尊い実は、柔和という恵みである。この恵みが魂を支配するとき、気質はその感化力によって形づくられる。絶えず神を待ち望み、意志はこのお方のみ旨に従うようになる。理解力がすべての神聖な真理をとらえ、意志はすべての神聖な規則に、疑いやつぶやきを述べることなく頭を下げるようになる。

真の柔和は心を和らげ、征服して、植えつけられたみことばにふさわしい思いを与える。それは思想をイエス・キリストに従順にさせる。ルデヤの心が開かれたように、神のみ言葉に対して心を開かせる。それはマリヤと共に学ぶ者としてイエスの足元へ座らせる。「へりくだる者（柔和な者）を公義に導き、へりくだる者にその道を教えられる」（詩篇 25:9）。

柔和な者の言葉は決して誇ることがない。幼子サムエルのように、彼らばしもべは聞きます。主よ、お話しください」と祈るのである（サムエル上 3:9）。

.....

キリストの学校における柔和は、聖霊の最も顕著な実の一つである。それはきよめ主としての聖霊によってなされる恵みであり、それを持つ者をいつでも性急で衝動的な気質を制することができるようにする。柔和という恵みを、生まれつき気質において不機嫌で短気な人々が持つようになるとき、彼らは自分たちの不満な気質を制するために最も真剣な努力を払う。毎日彼らは自制心を得、ついにはうるわしくないイエスに似ていないものに勝利する。彼らは神聖な型なるお方に同化し、ついには靈感を受けた指示、「人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである」に従うことができるようになる（ヤコブ 1:19）。.....

柔和とは内なる飾りであり、神は大きな価値あるものとしてごらんになる。使徒はこれについて金や真珠や高価な衣装よりもすぐれて価値あるものとして述べている。外面的な飾りは死すべき体を美しくするだけであるが、柔和という飾りは魂を飾るのであり、有限な人間を無限の神に結びつける。これこそ、神ご自身が選ばれる飾りである。天を光の球体で飾られたお方は、同じ御霊によって次のように約束しておられる。「へりくだる者(柔和な者)を勝利(救い)をもって飾られる」。天使たちは、主イエスを着てこのお方と共に柔和と思いのへりくだりのうちに歩む人々をもっとも美しく飾られた者として登録する。

クリスチャンには高い到達点がある。彼はつねにより高い到達点へと上っていくことができる。(清められた生涯 14 ～ 16)

9月8日

朽ちることのない飾り

「あなたがたは、……金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りでなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである。」（ペテロ第一 3:3, 4）

ハリス兄弟のところでわたしたちは金を身につけていながら、キリストの来臨を待っていると公言している姉妹と面会した。わたしたちは聖書が金を身につけることに對して明白に反対を宣言していることを述べた。しかし、彼女はソロモンが宮を麗しくして褒められたことや神に都の通りが純金であることを述べた言葉に言及した。彼女はもしわたしたちが金を身につけることによって外観を良くし、世において感化力を持つことができるなら、良いことだと言った。

わたしたちは哀れな墮落した死すべき者であって、ソロモンの宮が栄光に満ちて飾られたからといってこれらの体を飾る代わりに、自分たちの墮落した状態と、わたしたちを贖うために神の御子の苦難と死という代価が支払われたことを覚えているべきだと、わたしは答えた。この思想がわたしたちを自己謙遜へ導くべきである。

イエスはわたしたちの型であられる。もしこのお方がご自分の屈辱と苦難をわきへおき、「だれでもわたしに従って来たい者は、自己を喜ばせ、世を楽しめ。そうすれば、彼はわが弟子となるであろう」と叫ばれるならば、群衆はこのお方を信じ、従うのであろう。しかし、イエスは柔和で十字架につけられたご品性以外をもってわたしたちのところへ来られることはない。もしわたしたちが天でこのお方と共にいたいのであれば、地上においてこのお方に似ていなければならない。世は自分自身のものをわがものと主張する。そしてだれでも勝利したい者は、世に属するものを後にしなければならない。（ライフ・スチ 113, 114）。

すべての人の会計報告書が調べられるとき、あなたは……魂の内なる美しさはほとんどまったくなおざりにしながら、人の外面的な美しさを追求しようと思うであろうか。

わたしたちの姉妹は、言い訳せずに自ら聖書の土台に立つのに十分な熱心さと道徳的勇気を持っていないのであろうか。使徒はこの点においてもっとも明白な指示を与えてきた。「女はつつましい身なりをし、適度に慎み深く身を飾るべきであって、髪を編んだり、金や真珠をつけたり、高価な着物を着たりしてはいけない。むしろ、良いわざをもって飾りと」しなさい。(教会への証 4 巻 630)

衣服と娯楽の愛着が何千もの人々の幸福を破壊している。……簡素に衣服を着て、宝石やあらゆる種類の飾りの誇示をやめること、これがわたしたちの信仰を保つことにある。(同上 3 巻 366)

柔和でしとやかな内面の飾りは極めて貴重なものである。真のクリスチャン生活において、外面の飾りは常に内面の平和ときよさとに調和している。……美を愛し、それを望むのは正しいことである。しかし神は、われわれが、まず最高の美、すなわち朽ちることのない美を、愛し求めるよう望んでおられる。(患難から栄光へ下巻 223)

9月9日

世の窮乏をやわらげる

「天に、宝をたくわえなさい。…… あなたの宝のある所には、心もあるからである。」(マタイ 6:20, 21)

自分たちの宝のあるところには、心もある。財産という主のタラントを持っている人は重い責任の下におかれている。彼らは利己的な願望を満足させるためだけに金銭を投資すべきではない。なぜなら、そのように費やされたものは何であつても、その分主の金庫に入らなくするからである。神の最高の慈しみ深さを通して、聖霊が人間という代理人を通して働き、彼が多かれ少なかれ神のみ事業に投資するようにさせる。こうして彼らは神に栄光を帰すのである。

あなたが主の金銭を単に自分自身の利己的な満足のために用いることを考えると、ひどい貧しさのために食物も衣服も買えない人々が多くいることを覚えていなさい。そして彼らは神の嗣業なのである。わたしたちはすべての人に、特に信仰の家族の人々に善をなすべきである。もし豊かな財産のある人々が真理のうちに取り扱う神の代理人であれば、彼らは自分たちの宝を賢明に用いて、だれ一人信仰の家族の者が飢えたり裸になったりすることがないようにするであろう。

わたしたちの世にこれほどの窮乏が増し加わっているのは、金銭を委ねられてきた人々が聖化されていない願望を満足させるために、不要な金や宝石の飾りを買ったり、装飾品のために豪華なものを求めたりするのに費やしているからである。しかし、同時にキリストの血によって買われた人々は食べ物に飢えており、彼らの叫びは万軍の主の耳に入っている。……真理の入るべきすべての場所で、神の共労者となるべき人々になすべき働きがある。……

熱心な働きがわずかな牧師によってばかりでなく、教会のメンバー全体によってなされなければならない。天の主なる神は人々に、自分たちの偶像を捨て、すべての贅沢な願望を切り捨て、ただ誇示と見せびらかしのためにしかないものにふけることがなく、衣服や家具を買うのに儉約を学ぶように求めておられる。神の金銭を一ドルたりとも、不要なものを購入するために費やしてはならない。あなたの金銭は魂の救いを意味する。であれば、宝石や金を買うために費やさないようにしなさい。

キリストがそのために死なれた魂は自分の罪のうちに滅びつつあり、わたしたちは神のみ事業を前進させるための資金が欠乏しているために手をこまねいている。あなたはこの世で好みを喜ばせる宝石に金銭を費やす代わりに、むしろイエスがあなたの頭にかぶせてくださる冠に宝石を持つことを選ばないであろうか。……一円一銭を用いて、あなたに朽ちない宝をもたらすような方法で投資することができる。(手紙 90, 1895 年)

9月10日

天の織機で織られた上着を選ぶ

「彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩みを続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である。」(黙示録 3:4)

食事と同様に衣服においても、単純な生活こそ高い思考にとって必要欠くことのできないものであることを青少年たちに認めさせなければならない。学ばなければならないこと、しなければならないことが、どんなにたくさんあるかということや、一生の働きの準備として青少年時代がどんなにとうといものであるかということを、彼らに認めさせなければならない。神のみ言葉である聖書の中に、また自然の書の中に、あるいはまた崇高な人生を送った人々の歴史の中に、大いなる宝があることを彼らに認めさせなければならない。

彼らの思いはまた、救うことができるかもしれない悩める人々に向けられなければならない。みえを飾るために金銭が浪費されるたびに、それだけ飢えた者に食をあたえ、裸の者に衣をきせ、不幸な人々を慰める費用が失われて行くのだということを彼らに認めさせなければならない。

彼らは、道理においても気持ちのよさにおいても似つかわしさにおいても、全く根拠のない流行の命令に従うことによって、人生の輝かしい機会を失ったり、知性をいじけさせたり、健康をそこなったり、幸福をだいにしにしたりするようなことがあってはならない。

同時にまた「神のなされることは皆その時にかなって美しい」という自然の教訓を認めるように青少年たちに教えなければならない(伝道の書 3:11)。他のすべてのことと同じく、衣服においても創造主の栄えをあらわすことはわれわれの特権である。神はわれわれの服装が清楚で健康的であるばかりでなく、また身体に合った似つかわしいものであることをお望みになる。

服装によってその人の品性が判断される。洗練された趣味や教養のある

知性は、単純で似つかわしい服装の選択にあらわされる。質素で清楚な衣服は、けんそんな態度とあいまって、若い女性を気高い慎み深いふんいきで包み、それは多くの危険から彼女を守るのに非常に役立つのである。

服装の技術といえば、そこには当然自分で自分の衣服を作る能力が含まれていなければならないことを少女たちに教える必要がある。…… それは少女たちにとって欠くことのできない有用と自立への一つの手段である。……

青少年や幼い子供たちに、天の織機で織られた高貴な衣すなわち地上のすべての聖者たちに着ることを許される「光り輝く、汚れのない麻布の衣」を自分のためにえらぶことを教えるべきである（黙示録 19:8）。キリストの汚れのないご品性をあらわすこの衣は、すべての人に無償で与えられる。しかしこの衣を与えられる人はみなこの世において、これを受けとって身につけるのである。

子供たちが心を開いて、純真な愛の思いを持ち、人の助けとなる愛の行為をするとき、彼らは自らキリストの品性という美しい衣を身につけるのであるということを、教えなければならない。この衣服は、この世において彼らを美しく愛せられる者とし、来世においては、彼らが王なるキリストの宮殿にはいるための資格となるのである。キリストの約束は、「彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩み続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である」とある（黙示録 3:4）。（教育 293 ～ 295）

9月11日

やもめのレプタは 動機によって計られる

「言われた、『よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。』」（ルカ 21:3）

主のさい銭箱に二枚のレプタを投げ入れた貧しいやもめは愛と信仰と慈善を表した。彼女は神が不確かな将来を顧みて下さるものと信頼して、自分の持っているすべてのものを捧げた。彼女の小さな捧げ物は、わたしたちの救い主によって、その日さい銭箱に投げ入れられた中で最もたくさん入れたのだと宣言された。その価値は、貨幣の価値ではなく、彼女を促した動機の清さによって計られたのである。

真心からの捧げ物に与えられた神の祝福は、それを大きな結果の源とした。やもめのレプタは各時代にわたってほんの小さな川のように流れくんだり、その道を進むにつれて広く深くなっていき、何千もの方向へ真理を広め、困窮している人々を救済するために貢献したのであった。

その小さな捧げ物の感化力は、各時代、各国の何千もの人々の心に働きかけ、さらに反応を呼んだ。結果として、数え切れないほどの捧げ物が、惜しみなく自己を否定する貧しい者たちから主のさい銭箱へと流れ込んできた。また、彼女の模範は、何千もの安逸を愛し、利己的で疑う人々を良いわざへと刺激し、彼らの捧げ物もまた彼女の捧げ物の価値をふくらませてきたのであった。

惜しみなく捧げることは、何があってもなおざりにされてはいけない義務であるが、富んでいる者も貧しい者も、自分たちの神への捧げ物が自分たちのクリスチャン品性の欠点を贖うことができるという考えを一瞬たりともいだいてはならない。偉大な使徒は次のように言った、「たとい……わたしが自分の全

財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である」。

また、彼は真の愛の実をはっきり示している。「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。愛はいつまでも絶えることがない」。もしわたしたちがキリストに従う者として受け入れてほしければ、このお方の御霊の実を結ばなければならない。なぜなら、わたしたちの救い主ご自身が次のように宣言しておられるからである、「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである」。

わたしたちに贈り物や捧げ物をお求めになるのは、わたしたちのうちに慈善の精神を培うためである。このお方はご自分のみ事業を支えるために、わたしたちの財産をあてにはしておられない。預言者によってこのお方は次のように宣言しておられる、「林のすべての獣はわたしのもの、丘の上の千々の家畜もわたしのものである。わたしは空の鳥をことごとく知っている。野に動くすべてのものはわたしのものである。……世界とその中に満ちるものとはわたしのものだ」。(サイン・オブ・タイムズ 1886 年 1 月 21 日)

9月12日

主のために富を用いる

「富の増し加わるとき、これに心をかけてはならない。」(詩篇 62:10)

あなたの贖い主の言葉に耳を傾けなさい。「……富はわたしのものである。わたしはそれらをわたしの奉仕に賢明に用い、苦しんでいる者を助け、闇の中にいる人々に福音を開くのに投資するために、あなたの手にゆだねた。富があなたのよりどころ、あなたの神、あなたの救い主となってはならない。」

善をなすための通路は多くあり、それらは広く開かれている。あなたの倉庫は大きく、すでに大きすぎている。もしそれらがあふれるならば、さらに大きなものを建てる代わりに、あなたの宝をあなたが行く前に天へ送りなさい。養われるべきやもめ、あなたの家庭の保護の下におかれ、あなたの豊かなたくわえを分かち合うべき孤児がいる。命のパンがなくて減びつつある魂がある。伝道の働きが支えられ、集会所が建設されなければならない。もし神のみ事業が一部を要求するなら、あなたの利子だけではなく、あなたの資本からも、あなたはこのお方ご自身のものをお返ししなければならない。このお方はあなたが永遠の喜びをもって自分の収穫を刈り取ることができるように、今種をまくことを求めておられる。

神の賜物は与えるときに増し加わる。わたしたちは預言者エリシャによって奇跡的に負債から救済された貧しいやもめの場合においてこれが例証されたことを見る。彼女には一瓶の油しかなかった。しかし、預言者は彼女の隣人から器を借りるように命じ、油は次々と注がれていって、すべての器がいっぱいになるまで流れた。供給がやんだのは、それを受ける器がもはや運ばれてこなくなった時であった。今も同じである。わたしたちが神の賜物が善の通路に流れ込むようにしているかぎり、主はその流れを供給してください。

キリストはご自分のむすこ娘たちに次のように言われる、「あなたがたは世

の光である」。しかし、だれがあなたに光を与えたのであろうか。あなたには生来自分のうちに光はなかった。神が光の源であられる。真理が他の人々に反射するためにわたしたちの心のうちで輝いてきた。神への真の愛は人への愛を生み出すのである。これこそ、わたしたちが必要としているもの—忍耐強く、自己犠牲的で、辛抱強く、知的で、実践的な愛—である。

主はあなたに財産を与えてきた。それを正しく用いることによって、あなたは品性の善にして気高い特質を発達させることができる。……

主は来られる。あなたには無駄にする時間はない。あなたは洪水前の世界の住民がしていたこと—植え、建て、食い、飲み、めとり、とつぎ、不注意で世俗的な人々と同じこと—をしてはならない。天の書物がいま見えているのとは違った記録を提示するようにしなさい。急いで時を贖いなさい。自らに古びることのない袋を備え、失望させることのない天に宝をたくわえなさい。(サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 1 月 14 日)

9月13日

惜しみない精神が何をなすか

「施し散らして、なお富を増す人が……ある。物惜しみしない者は富み、人を潤す者は自分も潤される。」(箴言 11:24, 25)

多くの人は年ごとの自由献金のほかに、制度的に捧げ物を強いられた神のイスラエルの運命を哀れんできた。知恵に富まれる神は体系的な慈善がご自分のみ摂理に従って最善であることをご覧になり、ご自分の民にそれに関する指示をお与えになった。10分の9は、つねに10分の10よりも彼らにとって価値があることを証明してきた。自分たちの収益を神に出さないことによって、あるいはより劣った捧げ物一足のなえたもの、盲目なもの、病気なもの—をこのお方の許へ持ってくることによって増し加えようと考えた人々は、確かに損失をこうむってきたのであった。

見えなくてもみ摂理はいつも人間の問題において働いている。神のみ手は繁栄させたり、差し控えたりすることができ、このお方はしばしばある人からは差し控えて、他の人を繁栄させるように見える。これらはみな、人を試し、心を明らかにするためである。彼は不幸がある兄弟を襲うことを許し、一方では他の人々を繁栄させられるが、それはご自分が恵まれる人々がその目の前に神への恐れを持ち、み言葉のうちに彼らに課された義務、すなわち隣人を自分自身のように愛し、善をなすことを愛する心から自分たちより貧しい兄弟を助けるかどうかをご覧になるためである。惜しみない心と慈善の行為は、神が人の子らの心をやわらかく同情に満ちたものに保ち、わたしたちがご自分の貧しさを通して富む者となることができるように、わたしたちのために貧しくなられた主人を模倣して、互いへの関心と愛情を助長するよう意図されたものである。十一の律法は、永続的な原則の上に築かれ、人々の祝福となるように計画された。

慈善の制度は、大きな悪、すなわち貪欲を防ぐために制定された。(教会への証 3 巻 546, 547)

小さな慈善の細流は、つねに金庫に流れ込んでいなければならない。神のみ摂理は、わたしたちの惜しみない捧げ物よりもはるかにもっと早く前進し、先を行っている。(福祉伝道 268)

キリストの恵みが信徒の言葉やわざのうちに表現されるとき、光がやみの中にいる人々へと輝き出る。なぜなら、くちびるが神の賛美を語っているときに、手は滅びつつある人々を助けるために、慈善のうちに差し伸べられるからである。

わたしたちはペンテコステの日に、聖霊が弟子たちの上に下ったとき、だれも自分の持っているものをわがものと言わなかったことを読む。すべて彼らの持っているものはすばらしい改革の前進のために取りおかれていた。そして何千もの人々が一日のうちに改心した。同じ精神が今日信徒たちを動かし、彼らが同じ惜しみない心で神ご自身のものをお返りするならば、広く遠大な働きが成し遂げられるのである。(同上 271)

9月14日

ダニエルのように、正直にまっすぐに

「正しい者の誠実はその人を導き」(箴言 11:3)

ダニエルの事例は、預言的な筆で非常に限られた方法で描写されているが、わたしたちのための教訓がある。それは実業家が鋭く抜け目のない人となる必要性はないという事実を明らかにしている。彼は一步ごとに神に教えられる人となることができる。ダニエルはバビロン王国の総理大臣である一方、神の預言者であり、天の靈感の光を受けていた。……

特に実業家が必要とされている、すなわち宗教心のない実業家ではなく、偉大にして壮大な真理の原則を自分たちの仕事上の取引に織り込む人々が必要とされている。働きのための資格を持つ人々は、自分たちのタラントを最も徹底的な研究と訓練によって働かせ、実行する必要がある。働きにおいてどのような任務が与えられても、実業家のうち一人として未熟者である必要はない。もし何かの働きの分野で、人が賢明に能力のある実業家になるために自分の機会を活用する必要があるとすれば、それはわたしたちの世において神の王国を築き上げる働きに自分の能力を用いている人々である。

現代のための教訓はすべての人に理解されるべきであるが、非常にかすかにしか理解されていない。働きがもっと徹底的になされるべきである。そして、今起こりつつあり、また地上歴史の終わりに近づくにつれ重要性が大きくなっていく出来事を見越して、もっと油断なく目を覚まし、油断なく見張って祈り、そしてもっと油断なく働くべきである。人間の代理人は完全へ到達し、イエス・キリストにあつて完全な理想のクリスチャンになるべきである。

実業分野で働く人々は、間違った原則や方法による過ちに対してことごとく警戒すべきである。彼らの記録は、バビロンの宮廷におけるダニエルの記録のようになることができる。彼のすべての実業の取引において、最も厳密な精

査を受けたとき、一点たりとも過ちを見出すことはできなかった。彼はすべての実業家の模範であった。しかし、心が改心し、献身していなければならない。動機が神に対して正しくなければならない。内なるとし火が、金の器に流れ込む金の管を通して天の真の使命者からあふれる油で満たされなければならない。そのとき、人への主の伝達がむなしく人にもたらされることはない。

神は、自己が生きた焼きつくされる犠牲として祭壇の上におかれなければならない、もっとも立派な奉仕もお受け入れにならない。根が清くなければならない。さもなくば、唯一神に受け入れられる健全にして健康的な実は生じない。……人の世俗的な野心や世俗的なプロジェクト、最も偉大な計画や目的は、草のように衰えていくが、その一方「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう」。(特別な証シ-ズ A9 巻 65, 66)

9月15日

クリスチャンの特徴である 厳密な正直

「不足のない正しい重り石を持ち、また不足のない正しいますを持たなければならない。そうすればあなたの神、主が賜わる地で、あなたは長く命を保つことができるであろう。」(申命記 25:15)

人生のあらゆる詳細において、クリスチャンは厳密な正直の原則に従うべきである。これらは世を支配している原則ではない。なぜなら、サタンが主人であり、彼の法則である欺瞞と圧制が支配しているからである。しかし、クリスチャンは別の主人なるお方に仕えており、彼らの行為は神にあつてなされなくてはならない。彼らは利己的な利益を願うあらゆる願望を脇に捨てなければならない。

ある人々にとっては、実業の取引における完全な公平さからの逸脱は小さいことのように見えるかもしれない。しかし、わたしたちの救い主はそうにはご覧にならない。この点についてのこのお方のみ言葉は明白であり、あいまいさが無い。「小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である」。小さいことで逸脱する人は、誘惑が来ると、より大きなことでも逸脱するのである。

キリストに従う人々は多かれ少なかれ、実業の事柄において世とかわりを持たなければならない。彼らのための祈りの中でこのお方は、「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります」。クリスチャンは自分たちの上に神の御目があるという自覚をもって売り買いするのである。彼らは決して偽りの秤や欺きの重り石を用いてはならない。……

真のクリスチャンは生活のすべての行動において、まさに周りの人に思われ

たいと願うとおりの者である。彼は真理とまっすぐさによって導かれる。彼はたくらむことをしない。そのために、言い逃れなければならないことがない。彼は批判されるかもしれないし、試されるかもしれない。しかし、すべてのことを通して、彼の不屈の正直さは純金のように輝き出る。彼は自分とかかわりを持つすべての人にとって友であり、恩人である。そして彼の同胞仲間は彼に信頼を置く。なぜなら、彼は信用に値するからである。

彼は自分の収穫を集めるために労働者を雇うであろうか。彼は彼らが苦勞して手に入れた金銭を出さずにおくようなことはしない。すぐに用いる必要のない財力があるであろうか。彼は自分より恵まれない兄弟の必要を満たす。彼は自分の隣人の思いがけない状況を有利に用いて自分の財産を増し加えようとはしない。彼はただ自分が売るものに対する公平な代価を受け取る。もし売った品物に欠陥があれば、彼はたとえそうすることによって自分自身の金銭上の利益に悪影響をおよぼすように見えても、買った人に率直に話すのである。

人は好ましい外観をしていないかもしれない。しかし、もしその人に不正のない正直な取引をするという評判があるなら、尊敬される。……堅実に真理につきしたがう人は、すべての人の信頼を勝ち得る。クリスチャンが彼を信頼するばかりではない。世俗の人々も彼の品性の価値を認めざるを得ないのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 2 月 19 日)

9月16日

驚くべき光に輝く生きた石

「主は、人には捨てられたが、神にとっては選ばれた尊い生ける石である。この主のみもとにきて、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、霊の家に築き上げられ、…… イエス・キリストにより、神によるこぼれる霊のいけにえを、ささげなさい。」(ペテロ第一 2:4, 5)

神の聖なる働きが、何年も積み上げられてきたすべてのごみから清められるとき、神のみ名はあなたがたのただ中で栄光を受けるようになる。聖霊が人間の代理人を支配するとき、これまで行われてきた不正な仕事はなくなる。正直、誠実、そしてすべての人が働き方を理解しようとする自発性が見られるようになる。働き人たちの品性は純潔で堅固な木材をもって築き上げられる。取引におけるまっすぐさが神の戒めを守るすべての民の中で見られるようになる。織物のすべての繊維が主によって創出され、各々の働き人は模様を構成するのを助けるために織物の中に自分の糸を引き込むのである。模様は偉大な織機から完全なデザインで出てくる。

三千年前に、ダビデは次のように尋ねた、「若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。み言葉にしたがって、それを守るよりほかにありません」。すでに汚れた魂は清められ、精錬され、聖化される必要がある。そのとき、次の証を担うことができる、『『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである」。

この世でわたしたちはよいわざにおいて輝くべきである。主は聖なる事柄を扱うご自分の民がただ神と共にいて、天の原則をあらゆる実業の取引において反射させ、神のご品性と神の愛の光をキリストが反射されたように反射させるように求めておられる。イエスを〔眺めるとき〕、わたしたちの生活はことごとく

驚くべき光で輝く。わたしたちのあらゆる部分が光となるべきである。そのとき、どこを向いても、光がわたしたちから他の人々へ反射するのである。……

御霊の実—それは何であろうか。陰鬱、悲しみ、嘆き、涙であろうか。とんでもない。御霊の実は愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、信仰、柔和、節制である。これらの恵みは神の宮を構成するのを助けるすべての石のうちに見られるようになる。すべての石が同じ寸法や形なのではないが、すべての石に宮の中の場所がある。

宮の中には一つとして奇形の石はない。各々完全であり、多様性の中に一致があつて、完全な全体をなしている。一つ確かなことは、すべての石は生きた石であり、光を放つ石であるということである。今は、世の石切り場から取り出された石が神の作業場に持ち込まれて、切り出され、四角にされ、磨かれることによって輝くべき時である。(印税に関する特別な指示 20, 21)

9月17日

従順、信仰の実

「それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。」(出エジプト記 19:5)

服従すなわち愛よりでた奉仕と忠誠は、でしであることの真のしるしである。聖書にも「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである」(ヨハネ第一 5:3)『『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない」(ヨハネ第一 2:4) としるされている。人は服従しなくてもよいというのではない。信仰—ただ信仰のみがわたしたちをキリストの恵みにあずからせ、服従することができるようにするのである。

わたしたちは服従によって救いを買うのではない。救いは神から価なしに与えられる賜物であって、信仰によって受けるのである。服従は信仰の実なのである。「あなたがたが知っているとおり、彼は罪をとり除くために現われたのであって、彼にはなんらの罪がない。すべて彼におるものは、罪を犯さない」(ヨハネ第一 3:5, 6)。これがほんとうの試金石である。もし、わたしたちがキリストにあり、神の愛がわたしたちの心に内住するならば、わたしたちの感情も、思想も、行動も、神のきよいおきてに現わされた神のみ心に調和するようになる。「子たちよ。だれにも感わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行なう者は義人である」(ヨハネ第一 3:7)。義とは、シナイ山で与えられた十戒に現わされた神のきよいおきての標準によって定められるものである。

キリストを信じれば神に服従する義務はないという、いわゆる信仰は、信仰ではなく、臆測である。「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである(エペソ 2:8)と言われている。けれども「信仰も、それと同様に、行ないを伴わなければ、それだけでは死んだものである」(ヤコブ

2:17) ともしらされてる。また、イエスご自身も、この地上に来られる前に、「わが神よ、わたしはみこころを行なうことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」(詩篇 40:8) と言われた。そしてふたたび天にお帰りになる直前には、「わたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにいる」(ヨハネ 15:10) と仰せになった。聖書には、「わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである」とある。(ヨハネ第一 2:3) ……

とこしえの命を受ける条件は、わたしたちの祖先が罪に陥る前すなわちパラダイスにいたときと全く同じであって、それは、神のおきてに完全に服従すること、つまり完全に義であることである。もしとこしえの命がこの条件以下で与えられるものであるとすれば、全宇宙の幸福は危険にさらされ、罪の道が開けてあらゆる災と悲惨とが永久に絶えないことであろう。……

必要に迫られ、キリストと神のみ言葉に近づけば近づくほど、わたしたちはキリストの品性をもっとよく知ようになり、そのみかたちをもっと十分に反映するようになる。(キリストへの道 79 ～ 87)

9月18日

許しの基礎

「主は悪しき者に遠ざかり、正しい者の祈を聞かれる。」(箴言 15:29)

わたしたち自身、神の無代のたまものの恵みをこうむっている。契約における恵みがわたしたちを神の子と定めた。救い主の恵みによってわたしたちはあがなわれて、生まれかわった者となり、キリストと共なる世継ぎにまで高められたのである。この恵みを他の人々にあらわすようにしよう。

あやまちを犯したものを失望におとしいてはならない。パリサイ的なきびしさによって、兄弟を傷つけてはならない。にがにがしい軽べつの心をおこしてはならない。あざけりの調子を声に出してはならない。もしあなたが自分自身のことばを語り、無関心をよそおい、疑いや、不信を示すならば、魂を滅びにおとし入れることになる。あわれみ深い長兄イエスの心をもった人間が彼の心にもふれなければならない。心から彼に同情してあたたかく手を握り、いっしょに祈りましょうとささやきかけなければならない。神はあなたがた二人に、豊かな経験をお与えになることであろう。

祈りはわたしたちを互いに結びつけ、また、わたしたちと神とを結びつける。祈りはイエスをわたしたちに近づけ疲れ果てて倒れそうな魂に、世と肉と悪魔に勝利する新しい力をもたらす。祈りは、サタンの攻撃をかわすものである。

人が人間の不完全さから目を転じて、イエスを見上げるとき、聖なる変化が品性の中におこる。キリストの霊が心に働いて、そのみかたちに一致させる。そして、イエスを高く掲げるように努めなさい。心の目を、「世の罪を取除く神の小羊」に注ぎなさい(ヨハネ 1:29)。そしてあなたがこのような働きに従事するとき、「かように罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを死から救い出し、かつ、多くの罪をおおうものであることを、知るべきである」(ヤコブ 5:20)。

「もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう」(マタイ 6:15)。人をゆるさない精神を正しいと認めることはできない。他の人に対して無慈悲なものは、その人自身が神のゆるしのめぐみを受けていない証拠である。神のゆるしによって、あやまちを犯した者の心は無限の愛なる神の大いなるみ心に近くひきよせられる。神のあわれみが潮のように、罪人の心に流れ込み、又その人から他の人々の心に流れこむのである。キリストがその尊い生涯にあらわされたやさしさとあわれみとが、主のめぐみの共有者となる者の中に見られるのである。……

わたしたちは自分がゆるすからゆるされるのではない。わたしたちがゆるすようにゆるされるのである。すべてのゆるしはなんのいさおもなくして得られる神の愛に基づいている。しかし他の人々に対するわたしたちの態度は、わたしたちがその愛を自分のものにしたかどうかを示すのである。(キリストの実物教訓 225 ～ 227)

9月19日

親切な精神を促進する

「だれをもそしらず、争わず、寛容であって、すべての人に対してどこまでも柔和な態度を示すべきことを、思い出させなさい。」(テトス 3:2)

神の働きにおいてどれほど多くの有能な名誉ある働き人が、人生の最も低い地位における目立たない務の中で訓練を受けたことだろう。モーセはエジプトの未来の統治者であったが、神はモーセを王室から召して彼に割り当てられた働きをさせることがおできにならなかった。忠実な牧羊者として四十年を過ごしたのちにはじめて彼は民の救済者となるためにつかわされた。ギデオンはイスラエルの軍勢を救うために神のみ手のうつわとなるべく召されたのは穀物の打ち場からであった。エリシャはすきを捨てて神の命令を行なうように召された。アモスが伝えるべき使命を神から受けたとき、彼は土地をたがやす農夫であった。

キリストの共労者となる者はすべて非常に困難で、性分に合わない働きをしなければならないから、彼らに与えるべき教えは賢明に選択し彼らの特殊な性格や彼らのなす働きに適応したものでなければならない。

主はわたしに、多くの方法で様々なときに、わたしたちが青年たちをどれほど注意深く取り扱うべきであることを示してこられた。思いを扱うには最も繊細な識別力が要求されている。青年たちの教育と訓練に携わるすべての人は、偉大な教師の精神と働き方をとらえるために、このお方に非常に近く生きる必要がある。彼らの品性と人生の仕事に影響を与える教訓が与えられるべきである。

彼らにキリストの福音は他の人に不親切な判断を下し、自己を高める方向に向かわせるような差別の精神は許容していないことを教えるべきである。イエスの宗教は受ける人を低めることも、あるいは粗野で乱暴な者にすることも

ない。あるいはキリストがそのために死なれた人々に対して思いや感情において不親切にさせることもない。……

ある人は、外面だけを重要視し、単に慣例に従うことを過大評価する危険がある。……

容赦のない批判や、一つ一つの欠点や過ちに注目し暴こうとする気質を奨励するものは何であつても誤っている。それは不信と疑いを助長するものであり、キリストのご品性に反するものであり、そのように働かせる思いにとって有害である。この働きに携わる人々は、そのうち真のキリスト教の精神から離れるのである。

最も重要で永続的な教育は、より高尚な資質を発達させるもの、すなわち普遍的な親切の精神を助長するもの、青年たちが動機を誤って判断したり、言葉や行為を誤って解釈したりすることがないように、だれのことも悪く思わないように導くものである。このような種類の指示を与えるために捧げられた時間は、永遠の命へと実を結ぶようになる。(福音宣伝者 332-334)

9月20日

キリストをつねに視野に入れる

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。」（ヘブル 12:2）

もし疑いやねたみや嫉妬や邪推が心に抱かれていると、それらは神の祝福を追い出してしまう。なぜなら、イエスはこれらのものが抱かれている心にお住みになることができないからである。魂の宮はすべての汚れから清められていなければならない。……

キリストはこれらすべてのことの危険を予見されて、ご自分の命を世のためにお与えになる直前に、ご自分が御父と一つであられたように、ご自分の弟子たちがご自分と一つになるようにと祈られた。……神のぶどう畑の働き人として従事している人々のあいだの不一致ほど、神の御霊を悲しませるものはない。なぜなら、彼らが抱いているのと同じ精神が、諸教会の間で発散するからである。そのような種は一度まかれると、撲滅するのが難しい。事態を整え、調和と平和の状態をもたらすためには時間と労力と魂の心痛を要する。全天は教会の一致のために労しているが、キリストに従うと公言している人々は、神と食い違った目的で働いている。なぜなら、彼らがこのお方の指示に注意を払わず、不和をもたらしているからである。……

競走している人が、仲間が自分を追い越していかないかを見るために、いつも自分の後ろや脇ばかりを見たら、必ず勝利を失うことになる。彼は不朽の栄光の冠を得るために、自分の信仰の創始者であり、完成者であられるイエスを仰ぎ見つ、走らなければならない。

わたしたちが携わっている働きは壮大で聖にして尊い働きである。わたしたちは一瞬たりとも防備を解くことはできない。冠、冠、すなわち勝ち取るべき

朽ちない冠がつねに競走する人の前に保たれていなければならない。勝ち取るように走りなさい。……人を見てはならない。あなたの責任は神に対するものであり、このお方はすべての人に、そのわざにしたがって報いられる。……わたしたちは眺め、イエス・キリストのみ顔の輝く光線をとらえる。できる限りを受けるのである。環境をめぐる言い争うことをやめようではないか。そうではなくキリストをつねに視野に入れていなさい。聖霊の変化させる力を通して、わたしたちは眺めている祝福された対象のみかたちへと同化されていくのである。

つぶやいてもあら捜しをしてもならない。……キリストのかたちが〔イエスを眺めている魂に〕刻まれ、精神や、言葉や、同胞仲間への真の奉仕のうちに反射するのである。キリストの喜びがわたしたちの心のうちにあり、わたしたちの喜びは満ちる。これが真の宗教である。確実にそれを手に入れよう。そして、親切で、礼儀正しい者となり、魂に真の愛を持とう。それはあふれ出て、よい行いのうちに表され、世を照らす光となり、わたしたちの喜びを満たす種類の愛である。(原稿 26, 1889 年)

9月21日

イエスはわたしたちに 平安をお残しになった

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ 14:27)

わたしたちの主が十字架上の苦悩へ進んで行かれる前に、このお方は遺言を残された。このお方にはご自分の弟子たちに残す金銀や家屋はなかった。このお方は地上の所有物に関して言えば、貧しいお方であった。エルサレムでこのお方ほど貧しい者はほとんどいなかった。しかし、このお方はご自分の弟子たちに、いかなる地上の君主も自分の臣下に授けることのできない豊かな賜物を残していかれた。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな」。

このお方は彼らにご自分が地上で存命中に持っておられた平安を残していた。それは貧しさや攻撃や迫害のさなかにもこのお方と共にあり、ゲッセマネでの苦悩や残酷な十字架の間もこのお方と共にあったものであった。

救い主のこの地上の生涯は、争闘のただ中で生きられたのであったが、平和の生涯であった。怒った敵がこのお方をたえず追い求めていたが、このお方は「わたしをつかわされたかたは、わたしと一緒におられる。わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになることはない」と言われた。悪魔的な怒りの嵐も、このお方の完全な神との交わりの静けさを破ることはできなかった。そしてこのお方はわたしたちに「わたしの平安をあなたがたに与える」と仰せになる。

キリストをみことば通りに信じ、自分の魂をキリストの守りにゆだね、その

生活をキリストの命令に従わせる者には、平安とおだやかさがある。イエスが
そのご臨在によって彼らをよこばせてくださるとき、この世のどんなものも彼
らを悲しませることができない。ただ黙々として従うことに完全な休みがある。
「あなたは全き平安をもってこころざしの堅固なものを守られる。彼はあなた
に信頼しているからである」と主は言われる。……

どの人の経験も聖書のみことばの真実を立証している。「悪しき者は波の荒
い海のような。静まることができない」。……罪はわれわれの平安を破壊して
しまった。……人間の力では、心の中の支配的な欲情を制することができない。
弟子たちが荒れ狂う嵐を静めることができなかったように、われわれはこの点
において、無力である。だがガリラヤの大波に平安を語られたおかたは、ど
の魂にも平安のことばを語ってこられた。どんなに嵐がはげしくても、イエス
に向かって「主よ、助けてください」との叫びをあげる者には救いがある。魂
を神にやわらがせてくださるイエスの恵みによって、人間の欲情との戦いは静
まり、心はイエスの愛のうちに休まる。「主があらしを静められると、海の波は
穏やかになった。こうして……主は彼らをその望む港へ導かれた。……

神との調和のうちにある心は天の平安にあずかる者であり、その祝福され
た感化力をいたるところへ発散する。平和の精神は、弱った心や世の闘争に
悩む心に露のようにのぞむ。(サインズ・オブ・タイムズ 1905 年 12 月 27 日)

9月22日

規律は青年たちを より高い運命のために準備する

「これは知恵が、あなたの心にはいり、知識があなたの魂に楽しみとなるからである。慎みはあなたを守り、悟りはあなたを保って」(箴言 2:10, 11)

イスラエルの時代と同様に、現在でも、すべての青年は実際生活の義務について教えを受けなければならない。だれでも、何かの職業の知識を獲得し、もし必要ならば、生計を立てられるようにしなければならない。これは人生の浮沈に対する備えとしてばかりでなく、体的、知的、道徳的発達上からも重要なことである。肉体労働によって生計を立てる必要がないことがはっきりわかっている者であっても、なお働くことを教えなければならない。肉体の運動をしなければ、だれもじょうぶなからだと活気に満ちた健康を保持することはできない。そして規律に従った労働の訓練は、強く活気のある精神と、高貴な品性の獲得に欠くことのできないものである。……

青年たちに、彼らの造られた目的が、神をあがめ、同胞を祝福することであることを理解させよう。天の父が彼らにあらわされた慈悲深い愛を彼らに認めさせよう。また、彼らが人生の訓練によって、大きな運命に対する準備が与えられ、神の子となるように、尊く栄誉ある召しにあずかっていることを悟らせよう。そうすれば、幾千という青年たちは、低い利己的な目的と、これまで彼らの心を奪っていた軽はずみな快樂をきらって離れることであろう。彼らは、報賞を望む心や、罰を恐れる気持ちからではなくて、罪そのものの卑劣さを感じて、罪を憎み、それを避けるようになる。なぜなら、それが神から与えられた能力を低下させ、神のかたちに造られた人間性に汚点をつけるからである。……

成功を取めて、人々の尊敬を勝ち得る品性の特質、すなわち、何か大きな

善事をしたいという押えきれない願望、不屈の意志、奮闘努力、堅忍不拔の精神といったものは、打ちくだいてしまってはならない。そうしたものは、神の恵みによって、天が地よりも高いのと同じように、ただ利己的で現世的のものよりは、はるかに高尚な目的に向けられなければならない。

そして、現世で始められた教育は、来世にまで続くのである。神の驚くべきみわざ、宇宙を創造してそれを支持しておられる神の知恵と能力の証拠、救いの計画に表わされた愛と知恵の無限の神秘が、日ごとに新しい美しさをもって人の心に開かれる。……われわれは、現世でも神の臨在をかすかながら悟り、天の交わりの喜びを味わうことができる。しかし、その完全な喜びと祝福を達成できるのは、来世である。神のかたちに回復された人間の輝かしい運命を示すことができるのは、ただ永遠だけである。(人類のあけぼの下巻 262～264)

9月23日

年配の働き人たちへの 心のこもった敬意

「あなたは白髪の人の前では、起立しなければならない。また老人を敬い、あなたの神を恐れなければならない。わたしは主である。」（レビ記 19:32）

ヨハネの経歴は、神が年老いた働き人をお用いになる方法の顕著な実例を示すものである。ヨハネがパトモス島に追放されたとき、多くの人々は彼の奉仕が終わった、折れた古い葦は今にも倒れるであろうと思っていた。しかし主は彼をまだ用いることが適当であるとご覧になった。以前の働き場から追放されたが、彼は真理のあかしを立てることをやめなかった。パトモスにいてさえも彼は友人や改心者をつくった。彼のメッセージは喜びのメッセージであり、よみがえられた救い主が、天において彼らのためにとりなしをしておられ、ついにはその民を迎えにもどって来られることを宣べ伝えるものであった。そして主のために奉仕を続けて年をとった後、彼は生涯のこれまでのどんな時よりも豊かに天来の交わりを受けたのである。

生涯の力を傾けて神のみわざと取り組んできた人々に対しては、最も心のこもった敬意を表さなければならない。こうした老齢の働き人は、嵐や試練の真ただ中に忠実に立ってきた。彼らは病弱になっているかもしれない。しかし彼らはなお、神のために彼らの本分を全うする才能も資格も持っている。たとえ衰えて、若い者たちが負うことのできる、また、負わなければならないような重い責任を負うことができなくとも、彼らが与えることのできる勧告は最も価値のあるものである。

彼らは間違いをしたこともあったであろう。しかし、失敗から彼らは、誤りや危険を避けることを学んできた。……彼らは試みや試練に耐えてきた。そして彼らの活力の一部は失われたかもしれないが、主は彼らを除かれない。主

は彼らに特別の恵みと知恵を与えておられる。

みわがが困難なときに主に奉仕をしてきた人々、真理のために立つ者がほとんどいなかったときに信仰を持ち続けた人々は、尊ばれ、尊敬されなければならない。…… そのような老練な働き人が共にいるために、大変恵まれているのだということを、若い者たちは認識しよう。若い者たちは会議の場で彼らを礼遇しよう。

キリストのみわがに一生をささげてきた人たちが、地上での奉仕を終える時期に近づくと、聖霊による感銘を受けて、これまで神のみわがに携わっていたときの経験を詳しく話すようになる。神がその民を導かれたすばらしい配慮や、試練から彼らを救い出された神の大きな恵みの記録は、新しく信仰に導かれてきた者たちに繰り返し語られなければならない。神はこの年老いた経験豊かな働き人たちが、彼らの持ち場に立って、人々を悪の大波に押し流されないよう救うために彼らの分をなすようにと望んでおられる。神は、武具を脱ぐよう彼らに命じるまでは、武具をつけているようにと望んでおられる。(患難から栄光へ下巻 276, 278)

9月24日

弱さがおとずれるとき、 神に信頼せよ

「見よ、神はわが救である。わたしは信頼して恐れることはない。主なる神はわが力、わが歌であり、わが救となられたからである。あなたがたは喜びをもって、救の井戸から水をくむ。」（イザヤ 12:2, 3）

さて、あなたがもはや活動的ではいられなくなり、弱さがあなたに押し寄せるとき、神があなたにお求めになることはただご自分を信頼することだけである。あなたの魂の守りを忠実な創造主であるこのお方にゆだねなさい。このお方の憐れみは確かであり、このお方の契約はとこしえである。自分の望みが、真理を永遠に守られる自分の神にある人は幸いである。あなたの思いが約束をつかみ、それをしっかり握っているようにしなさい。もしあなたが尊い約束の中に含まれている豊かな保証をすぐに思い出すことができなければ、それらを他の人の唇から聞きなさい。なんという満ちみちた徳、なんという愛と保証が、神ご自身の唇より語られたこれらのみ言葉の中に見出されることであろう。それはこのお方の愛、このお方が守られる子らへのあわれみと関心を宣言している。「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさず、父の罪を子に報い、子の子に報いて、三、四代におよぼす者」（出エジプト記 34:6, 7）。

主はご自分の苦しんでいる者たちへの同情で満ちておられる。このお方の許しにとって大きすぎる罪があるであろうか。このお方は憐れみ深く、責めるよりはもっと限りないほど快く喜んで許してくださるのである。このお方は恵み深く、わたしたちのうちに悪を探そうとされない。このお方はわたしたちのさまをご存じであり、わたしたちがちりにすぎないことを覚えておられる。ご自分

の尽きぬ同情と憐れみのうちに、このお方はわたしたちの背信をみな癒し、わたしたちがまだ罪人であったときに惜しみなく愛し、このお方の光を差し控えることなく、かえってキリストのためにわたしたちの上に輝かせてくださる。

あなたは、……いつもあなたの義なるイエスに信頼するであろうか。神の愛は、恵み深く与えられている聖霊によってあなたの心のうちに広く注がれている。あなたはキリストと一つである。このお方はあなたに忍耐強くなるための恵みを与えて下さり、信頼する者となるための恵みを与えて下さり、落ち着きのない心を克服するための恵みを与えて下さり、あなたの心をご自身のかんばしい御霊で温めて下さり、あなたの魂をその弱さのうちに生き返らせて下さる。この世でよりよい国、み国を望み見る寄留者また旅人である日は、あとわずかである。わたしたちの家郷は天にある。そうであれば、あなたの魂を神への信頼のうちにとどめておきなさい。あなたのすべての重荷をこのお方の上に置きなさい。

ああ、あなたの心はこれまでどれほど救い主のみ顔の美しさに感動し、このお方のご品性の麗しさに魅了され、このお方の苦難を思って征服させられてきたことであろう。今、このお方はあなたが自分のすべての重みをご自分によりかからせるよう望んでおられる。……「その日あなたは言う、「主よ、わたしはあなたに感謝します。あなたは、さきにわたしにむかつて怒られたが、その怒りはやんで、わたしを慰められたからです。見よ、神はわが救である。わたしは信頼して恐れることはない」（イザヤ 12:1, 2）。(レクイエム・メッセージ 2 巻 231, 232)

9月25日

言葉のタラントを培う

「いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりびとりに対してどう答えるべきか、わかるであろう。」(コロサイ 4:6)

子供たちに、正しいことば使いを教えることは、親のつとめである。この修練を行なう一番よい学校は、家庭である。子供たちには、幼いときから、ていねいで愛にあふれたことばを両親に向かって、またお互いの間でつかうように教えなければならない。そして、柔和で真実で純潔なことばだけを、くちびるから出すべきことを、教えなければならない。両親自身が、日ごとにキリストの学校で学ぶ者となっていなければならない。そうすれば、「非難のない健全な言葉を用い」るように、自ら模範を示しながら、子供たちに教えることができる(テトス 2:8)。これは両親の最も重大な責任の一つである。(キリストの実物教訓 313)

話すという能力は、つとめて修得しなければならないタラントである。わたしたちが神から受けたあらゆるたまものの中で、これほど大きな祝福をもたらす能力は、ほかにない。わたしたちは、声を使って、人を説得したり、信服させたり、神に祈ったり、賛美したりする。また、声を用いて、あがない主の愛について、人びとに語るのである。であるから、声を最も効果的に善のために用いるよう訓練することが、非常にたいせつである。……

熱心に努力することによって、だれでも、よくわかるように読み、音量のあはつきりした丸い声で印象深く語ることができる。こうすることによって、わたしたちは、キリストのために働く者として大いに効果をあげることができる。

すべてのクリスチャンは、キリストの無尽蔵の富を他の人びとにのべ伝えるために召されたのである。……

ことばの力を正しく修練して用いることは、クリスチャン活動のあらゆる面

に関係がある。これは、家庭生活の中にも、人との交際のどの場合にも必要なものである。わたしたちは、快い音声で話し、まちがいのない正しいことばを用い、親切で礼儀にかなったことばを使うようにしなければならない。やさしい親切なことばは、魂にとって、露のようなもの、静かに降る雨のようなものである。聖書にも、キリストには、「気品がそのくちびるに注がれて」いたから「疲れた者を言葉をもって助けること」がおできであったとされている(詩篇 45:2)、イザヤ書 50:4)。また、「いつも……やさしい言葉を使いなさい」(コロサイ 4:6)「聞いている者の益になるようにしなさい」(エペソ 4:29) と主はお命じになるのである。

人の誤りを正し、改めさせようとする場合、ことばに気をつけなければならない。……真理の原則をのべ伝えるものは、すべて、天からの愛の油を受ける必要がある。どんな場合であっても、譴責のことばは、愛をもって語らなければならない。そうするならば、わたしたちのことばは、人を怒らせたりしないで、改革をうながすことができる。キリストは、聖霊によってわたしたちに、活力と能力を供給してくださる。これがキリストのお働きなのである。(同上 309 ～ 312)

9月26日

だれのことも悪く言わない

「この世は、罪の誘惑があるから、わざわざである。罪の誘惑は必ず来る。しかし、それをきたらせる人は、わざわざである。」(マタイ 18:7)

非難の言葉は自分自身の魂に反作用する。舌の訓練はわたしたち自身から始められるべきである。だれのことも悪く言わないようにしよう。

「もしあなたの片手または片足が、罪を犯させるなら、それを切って捨てなさい。両手、両足がそろったままで、永遠の火に投げ込まれるよりは、片手、片足になって命に入る方がよい」。

わたしたちが手や足のように大事にしている悪いことがあるかもしれない。これらのことは、永遠にわたしたちから捨て去らなければならない。わたしたちの独特な聖化されていない考えを他の人々に押しつけるようなことは決してあってはならない。……

教会員の間でなされるべき大いなる働きがある。公の伝道活動に入るように召されていない多くの人々は、自分たちの唇をもって慎重に語るにより、地元の教会で大いに善をなすことができる。言葉のタラントは神に栄光を帰するために用いられるべきである。あまりにもしばしばそれは悪評を伝えるために用いられる。これは聖霊を悲しませる。わたしたちには、すべての重荷をもってご自分の許へ来るようにと命じておられる救い主がおられることを覚えていよう。このお方はわたしたちに思いの平安を与えて下さる。そしてまたこのお方はすっかりもつれたように思える困難も整えて下さるのである。このお方ばすべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのものにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と嘆願しておられる。……

文句と非難の言葉にふけてきた人々は、……主の助けによって、これからは自分の兄弟姉妹を悪く言わず、すべてを祈りのうちに神に持ち来たり、自

分の同胞のうちにある悪を指摘することに関して、このお方が与えてこられた指示に従うと誓いなさい。すべての教会員は、自分の日々のふるまいの中で模範的となり、言葉において良識があり、注意深く、また親切で同情深くなることによって、すべての人があなたは神をおそれ神を愛する者だとわかるようにしなさい。そのような人は自分と交わるすべての人に善への感化力がある。

わたしたちは過ちを犯しやすく、何度も過ちを犯してきた。悔い改めと告白をもって主に帰ろう。主の家の儀式に参加するために集まるとき、力の及ぶ限り、すべての悪を正すようにしよう。兄弟の前にひざまずいて彼の足を洗うとき、次のように自問しよう。「わたしは心のうちにこの兄弟から自分を引き離すものをもってはいないだろうか。わたしたちを疎遠にするようなことを言ったり、したりしたことはないだろうか」。もしそうであれば、自分の罪を心から告白してそれを捨てなさい。こうして心は心と固く結びあわされ、神の祝福が表わされるのである。(原稿 102, 1904 年)

9月27日

よく選ばれた言葉の喜び

「人は口から出る好ましい答によって喜びを得る、時にかなった言葉は、いかにも良いものだ。」(箴言 15:23)

「時にかなった言葉は、いかにも良いものだ」。魂は個人的な働きがないために滅びつつある。……

日々神に献身しているすべての人によって、宗教の明るく快活な面が表わされるようになる。わたしたちは嘆かわしく見える試練を悲しそうに語ることによって、わたしたちの主を辱めてはならない。すべての試練は教育者として受けるなら、喜びを生み出す。宗教生活全体は、引き上げ、高め、高尚にし、よい言葉とわざに香るものとなる。……〔神は〕すべての魂が贖い主の守りの力のうちに勝利するよう望んでおられる。

詩篇記者は次のように言っている、……「そのみ名にふさわしい栄光を主に帰せよ。……聖なる装いをして主を拝め」。……「主をほめうたい、その聖なるみ名に感謝せよ」。

わたしたちの天父がわたしたちに授けてこられた恵み深い祝福のうちに、無限なる愛と、母親がわがままな子どもに寄せる同情にはるかに勝るやさしい哀れみの数え切れないほどの証拠を認めることができる。わたしたちが十字架の光のうちに神聖なご品性を研究するとき、わたしたちは公平と正義にまじりあった憐れみ、やさしさ、そして許しを見る。ヨハネの言葉のうちにわたしたちは「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」と叫ぶのである。

わたしたちはみ座の中に、人を神に、また神を人に和解させるために耐えられた苦難のしるしをみ手とみ足と脇にもっておられるお方を見る。比類のない愛が、無限にして近寄りがたい光のうちに住んでおられながらも、ご自分の御

子の功績を通してわたしたちをご自分の許へ受け入れて下さるみ父を表す。悲慘と絶望を脅かすことしかない報復の雲は、十字架からの反射している光のうちに、次の神の筆跡を表す、「生きよ、罪人よ、生きよ。悔い改めて信じる魂よ、生きよ。わたしは贖い代を支払った」。

わたしたちは十字架の周りに集まらなければならない。キリスト、しかも十字架につけられたキリストが瞑想と会話と、わたしたちの最も喜ばしい感情の主題でなければならない。わたしたちは自分たちの考えの中に神から受けたすべてのことを生き生きと保ち、このお方の偉大な愛への感謝とわたしたちのためにくぎづけられたみ手にすべてのものを喜んで委ねることを表明するために、特別な賛美礼拝を持つべきである。……わたしたちはカナンの言葉を語り、シオンの歌を歌うことを学ぶべきである。十字架の奥義と栄光によって、わたしたちは人の価値を測ることができる。そのときわたしたちは自分の同胞仲間が神のみ座へと高められるために、彼らのために働く重要性を悟り、感じるのである。(ザン・ウォッチマン 1905 年 3 月 7 日)

9月28日

賛美と感謝を注ぎだす

「わたしは歌をもって神の名をほめたたえ、感謝をもって神をあがめます。」(詩篇 69:30)

声はすばらしい器官である。それはすばらしい祝福であるから、完全にキリストの側に用いるようにし、天への道の厳しさをつぶやくことによって悪魔を賛美しないようにしよう。わたしたちは、世に対して神のいつくしみ深さを語り、このお方のみ力を伝えて、わたしたちが神にささげる捧げものにより、宗教とイエス・キリストのうちにある美しさの生きた模範であることを覚えていよう。

もしあなたがつぶやきたい気分になったら、それに呼吸を与える前に死に至らしめなさい。そして、あなたの声と舌を教育しなさい。そうすれば、朝あなたが目を覚ますとき、まっさきに「わたしは主に感謝する。このお方は夜の間わたしを守ってくださった。イエス・キリストよ、あなたに感謝します、わが心のうちにある平安を」と言うようになり、朝に、昼に、夜に、あなたは感謝の捧げものをささげる。それは神のみ前にかぐわしい香りのように立ち上る。

そして、イエスはわたしたちに慰め主を与えと言われた。慰め主とは何であろうか。それは神の聖霊である。聖霊とは何か。イエス・キリストの代表であり、わたしたちのかたわらに立って、わたしたちの嘆願をキリストの功績をもってことごとくかぐわしいものとし、御父の前におかれる。そこで、このお方はもっともつつましい聖徒の嘆願もお受入れになる。このお方はいくらお金をもっているか、あるいはどれほどの財産を積み上げてきたかをお尋ねになることはない。しかし自分の嘆願を神のみ許にたずさえてくるもっともつつましい聖徒と〔その〕感謝の捧げ物は、このお方の恵みの富によってかぐわしいものとされる。そして御父はそれをあなたがたの捧げ物としてお受入れになり、祝福があなたがたにもたらされ、恵みに次ぐ恵みが与えられる。

あなたがたが感謝の捧げものを注ぎだすとき、神は栄光をお受けになり、あなたがたにもっと多くのものを賜わる。あなたがたが感謝を注ぎだすとき、このお方はさらなる喜びを与えて下さる。わたしたちはあらゆる祝福が流れてくる神を賛美することを学ぶ。今ここで、ページをめくり、つぶやきや文句やあらゆる捜しを忘れて、舌を礼儀正しい言葉、また愛する言葉、同情の言葉、またこのお方の子らの互いの優しい親切へと教育し始めないであろうか。

内にかたちづくられたキリスト、すなわち栄光の望みを、わたしたちの結ぶ実によって示そうではないか。それによって生きた救い主……このお方がよみがえられたという証拠を世に示すことができる。このお方は墓のかせを断ち切られた。勝利のうちに、ヨセフの裂かれた墓を喜ばれる。「わたしはよみがえりであり、命である」。神に栄光あれ。わたしはこのお方を、すなわちよみがえりであり、命であられるお方を賛美する。……あなたには……生きた救い主がおられる。

そうであればあなたがたの無力な魂をイエス・キリストにあずけてしまいなさい。ぶどうの木に宿り、このお方の栄光のために実を結びなさい。そうすれば、このお方の喜びがあなたがたのうちにあり、その喜びは満ちる。……神の御霊が心を印象づけて下さり、あなたがたがイエス・キリストの代表者であるがゆえに、その品性がイエス・キリストのうるわしさをあらわすことができるように。
(原稿 43, 1894 年)

9月29日

わたしたちは自分の時間を 賢明に用いるべき

「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え」(ローマ 12:10, 11)

時は貴重なタレントである。毎日それはわたしたちへの信任として与えられているのであり、わたしたちはそれについて神に会計報告を出すことを求められることになる。それは神の栄光のために用いられるべきである。そして、わたしたちが自分の命を長くしたいならば、すなわちもし神の命で測られる命を得たいならば、わたしたちは思いに純粋な食物を与えなければならない。善用できるはずの時間を無駄にしてはならない。

イエス・キリストはわたしたちの霊的な試金石である。このお方は御父を表して下さる。神のみ言葉に関して思いの前にかすみや曇りをもたらすようなものは何一つ脳の食物として与えられるべきではない。心の土壌を耕すことに関して、何一つ不注意な無関心が示されてはならない。(原稿 15, 1898 年)

知識を得、知力を啓発するか否かは、時間を正しく活用することにかかっている。知力の啓発は、貧困であるとか、身分がいやしい身分であるとか、逆境にあるからとかいって妨げられるべきものではない。ただ時間を重んじればよいのである。なんのあてもないむだ話、朝、床の中で浪費する時間、電車や汽車の中、駅で待つ間、食事を待つ時間、約束の時間に来ない人を待つ間などの時間を、本を手にしていて、研究、読書、思索などに活用するならば、どのようなことが成しとげられるかわからない。固い決心をもって、たゆまぬ努力を重ね、注意深く時間を節約するならば、知識と知的訓練を受けることができて、どのような地位にでも適した者となり、よい感化を及ぼし、りっぱに役立つ人物となるのである。

整頓(せいとん)、徹底、敏速の習慣をつけることは、すべてのクリスチャ

ンの義務である。…… それには仕事をするにあたって、はっきりした目標を立てることである。この仕事には何時間必要であるかを定め、その時間内に、仕事を完成するように全力を注ぐのである。意志を働かせるならば、手も器用に動くようになるのである。(キリストの実物教訓 319 ～ 320)

むだに時間を使うことも、むだに考えることも不正である。また自分の利益のためにだけ時を費すことは、その時間をすべて失うことになる。一刻一刻を尊び、これを正しく用いるならば、自分にとっても、社会にとっても、行う必要のあるすべてのことに時間があるはずである。金銭を費すとき、あるいは時間、体力、機会を使用する場合、すべてクリスチャンは神に指導を仰がなければならない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 185)

神が人に時間というたまものを与えておられるのはご自分の栄光を促進するという目的のためである。(両親と教師への勧告 354)

9月30日

わたしたちの行動によって証言する

「わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。」（ガラテヤ 6:9）

何度もくり返しわたしは、働き、信じ、祈る個人的な責任を、わたしたちの民に課すように命じられている。聖書の真理を受け入れることは、継続的な自己否定へと導く。なぜなら、自己放縦は決してキリストのような経験のうちに見出し得ないからである。真に改心した男女は、日ごとの行動の中で、カルバリーの十字架を表すようになる。キリストのみ事業を受け入れるということは、このお方の十字架を受け入れることだということを理解しないセブンスデー・アドベンチストが多い。彼らがその生活で自分たちが弟子であることを示す唯一の証拠は、彼らの帯びている名前だけである。しかし、真のクリスチャンは自分の管理職を聖なるものとみなす。彼は辛抱づよくみ言葉を研究し、自分の生涯をキリストの奉仕へと明け渡すのである。

励ましのみ言葉が与えられている、「善を行うことに、うみ疲れてはならない」、「いつも全力を注いで主のわざに励みなさい」。救われるべき世があり、福音のメッセージを宣布することによってのみ成し遂げられるなすべき働きがある。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」。わたしたちはこのお方の言葉に尽くせない賜物のゆえに心と魂をもって主に感謝しないであろうか。世にキリストを表す働きに、すべての能力とタラントを喜んでささげようとししないであろうか。……

「よいわざ」は、悔い改めと改心の経験が生活にもたらされるときに現れ始める。……わたしたちが他の人々に変化させる神の恵みの力を表すのは、真理の信仰を通して品性においてわたしたちが変えられることを示すことによってで

ある。(レビュー・アンド・ヘラルド 1909 年 2 月 25 日)

「御言を教えてもらう人は、教える人と、すべて良いものを分け合いなさい。まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる」(ガラテヤ 6:6, 7)。すばらしい真理である。これはどちらも切るもろ刃の剣である。この生死にかかわる問いが全人類の前にある。この世の生涯でなす選択は、永遠にわたってわたしたちの選択となる。わたしたちは永遠の命か永遠の死のいずれかを受けるのである。中立の立場も第二の恩恵期間もない。

わたしたちはこの生涯において、キリストが勝利されたように勝利するよう求められている。天は、わたしたちがキリストが勝利されたように勝利し、このお方とその御座に座することができるように、わたしたちに豊かな機会と特権を提供してきた。しかし、勝利者になるためには、わたしたちの生活において肉的な傾向を大事にするようなことがあってはならない。すべての利己心は根から断ち切れなければならない。……

心がキリストのうちに包まれていればいるほど、永遠の世界における宝はより安全である。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1112)



第三天使のメッセージ

Part 2

第三天使と印する働き

「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、『おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者……ここに、神の戒めとイエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある。』」（黙示録 14:9 ～ 12 英語訳）

「また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、大声で叫んで言った、『わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない。』わたしは印をおされた者の数を聞いたが、イスラエルの子らのすべての部族のうち、印をおされた者は十四万四千人であった。」（黙示録 7:2 ～ 4）

「神の日に立ち得る民を準備するには、改革の大いなる働きが成し遂げられねばならなかった。神は、神の民と称する人々の多くが、永遠のために築いていないのを見られ、あわれみのうちに彼らに警告の使命を与えて、彼らを昏睡から目ざめさせ、主の再臨の準備をさせようとした。この警告が、黙示録一四章に記されている。」（各時代の争闘上巻 400）

「わたしは、神の戒めとイエスの信仰を宣布している第三天使は、〔黙示録 14:9 ～ 12 参照〕このメッセージを受けて、神の戒めとこのお方の律法を目の瞳のように守るよう、世に対して警告の声をあげる民を表していること、そして、この警告に応えて、多くの人々が主の安息日を受け入れるようになるこ

とを示された。」(クリスチャン経験と教え E・G・初仆 87)

「そこにわたしは、四人の天使が都の門に向かって飛んでいるのを見た。彼らは門の所にいる天使に、黄金のカードを見せているところだった。そのとき、わたしはもう一人の天使が、最も輝かしい栄光に照り映えている方角から、速やかに飛んできて、手に持った何かを上下に振りながら、他の天使たちに大声で叫ぶのを見た。……

わたしは、地上でなすべき働きを持っていた四人の天使たちが、その働きを成し遂げる途中にあるのを見た。イエスは祭司の衣をまといおられた。彼はあわれみの情をもって残りの民をごらんになった。それから、両手をあげて、深いあわれみのこもった声で、「わたしの血、父よ、わたしの血、わたしの血、わたしの血!」と叫ばれた。すると、白い大きなみ座に座っておられる神から、非常に輝かしい光がでてきて、イエスのまわり一面を照らすのを、わたしは見た。それから、イエスからの任務を帯びた一人の天使が、地上でなすべき働きを持っていた四人の天使たちの所に、速やかに飛んでいって、手に持った何かを上下に振って、大声で、「神のしもべたちの額に印が押されるまで、待て、待て、待て!」と叫ぶのを、わたしは見た。

わたしは、わたしと一緒にいる天使に、わたしが聞いたことの意味と、四人の天使が何をしようとしているのかを尋ねた。彼は、わたしに、諸勢力を制しておられるのは、神であって、神が地上のことに関して、天使たちに任務を与えておられるのであると言った。また四人の天使たちは、四方の風を引き止める力を神から与えられていて、今にも風を吹かせようとしていたが、彼らが手をゆるめて、四方の風が吹き始めようとしたときに、あわれみ深いイエスの目が、まだ印されていない残りの民をごらんになって、彼は天の父に向かって手をあげて、ご自分が彼らのために血を流されたことを訴えられたのだと言った。そこで、もう一人の天使が、四人の天使たちのところに速やかに飛んで行く任命を受けた。そして、神のしもべたちが生ける神の印を彼らの額に押されるまで、引き止めるようにと彼らに命じたのであった。」(初代文集 98～100)

「次に、わたしは、第三天使を見た。わたしと一緒にいた天使は言った。『彼の任務は、恐るべき任務である。彼は、麦を天の倉に入れるために、麦を毒

麦からよりわけて印をおし、たばねる天使である。われわれは、こうしたことに全身全霊をかたむけ、すべての注意を向けなければならない。』（初代文集 221）

「イエスは、聖所における奉仕を終わり、至聖所にはいつて、神の律法を納めた箱の前に立たれたときに、世界に対する第三のメッセージをたずさえたもうひとりの力強い天使を、お送りになった。天使の手には、羊皮紙が渡された。そして、彼は、力と威光とをもって地に下り、これまで人類に伝えられたことのない、恐怖すべき威嚇をもった恐るべき警告を発した。このメッセージは、神の民の前にある試みと苦悩の時を彼らに示して、彼らに用心させるためのものであった。『彼らは、獣とその像と激しく戦わなければならない。彼らが永遠の生命を得る唯一の希望は、堅く立つことである。彼らは、その生命が危機にひんしても、真理に固く立たなければならない』と天使は言った。第三の天使は、『ここに、神の戒めとイエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある』と言って、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返したときに、天の聖所を指さした。このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。イエスはそこで箱の前に立って、恵みがなお与えられているすべての人々……のために最後の仲保をしておられるのである。』（初代文集 414, 415）

「第三の天使は、彼らを至聖所に導いた。そして、過去のメッセージの経験を経た人々も、彼らを天の聖所へと指さしていた。』（初代文集 417）

「第一の使命を拒んだ者は、第二の使命からも益を受けることができなかった。……初めの二つの使命を拒んだために、理解力の暗くなった彼らは、至聖所に至る道を照らしている第三天使の光を見ることができなかった。』（初代文集 423）

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。』（コリント第二 3:18）

「わたしたちは神がわたしたちに与えて下さった麗しい模範〔型：パターン〕を模倣すべきである。わたしたちはこの滅びつつある世の中で他に何も満足す

るものがなくなるまでイエスの比類のない魅力を熟考すべきである。わたしたちは親切のうちに、礼儀のうちに、優しさのうちに、そして愛のうちにこのお方の御姿を映したいと切望すべきである。そうすれば、「彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする」。もうまもなく、神の子であるすべての人は、自分の額に神の印を受けるようになる。ああ、それがわたしたちの額に押されるように！御使が神の僕たちの額に印するために出て行くとき、彼らが自分たちを通り過ぎて行ってしまうという考えにだれが堪えられるであろうか。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1889 年 5 月 28 日)

「蠟(ろう)に刻印が押されるように、魂も神の刻印を受けて、キリストのみかたちを保有することになっている。」(サイン・オブ・タイムズ 1907 年 1 月 2 日)

「わたしたちはキリストのうちにある徳の高さにまで至るために全力を尽くして努力しているであろうか。わたしたちはこのお方の満ちみちた徳の高さを求めて、つねに目の前に置かれている目標—このお方のご品性の完全さを目指して前進しているであろうか。主の民がこの目標に到達するとき、彼らはその額に印されるのである。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1902 年 6 月 10 日)

生ける神の印とは何か

「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたの間のしるしとなつて、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」(エゼキエル 20:20)

「神の律法の印は、第四条の戒めの中に見いだされる。十誡の中で、第四条だけが、律法を与えたかたの名と称号とを二つとも明らかにしている。それは、彼が、天と地の創造者であることを宣言し、したがって、他のすべてにまさって崇敬と礼拝を受くべきかたであることを示している。この戒めを除いては、だれの権威によって律法が与えられたかを示すものは、十誡の中に何もない。法王権が安息日を変更したとき、律法から印が取り除かれた。イエス

の弟子たちは、第四条の安息日を、創造主の記念と彼の權威のしるしとしての正当な位置に高めることによって、それを回復するように求められている。」(各時代の争闘下巻 175)

「イスラエルがエジプトから脱出して地上のカナンに入るときに、安息日が区別されたイスラエルの印であったように、安息日は今も、神の民が世から出て天の休息に入るとき、神の民を区別する印である。安息日は神とご自分の民の間に存在する関係の印であり、彼らが神の律法を尊ぶという印である。それはこのお方の忠臣たちと不法者たちを区別する。」(教会への証 6 巻 349, 350)

聖霊の働き

「神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。」(エペソ 4:30)

「けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。」(ヨハネ 16:13)

「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。」(ヨハネ 17:17)

「あなたの義はとこしえに正しく、あなたのおきて(律法)はまこと(真理)です。」(詩篇 119:142)

「神の民の額に押される、生ける神の印とは何であろうか。それは人の目では読むことができないが、天使たちには読むことのできる印である。なぜなら、滅びの天使は、この贖いのしるしを見なければならないからである。知性に富む天使は、主のむすこ娘たちとされた人々のうちにカルバリーの十字架の印を見てきた。神の律法に違反した罪は取り除かれている。彼らは礼服を着ており、神のすべての戒めに従順かつ忠実な人々である。……

イスラエル人たちは彼らが神の所有であるということを示すために、血の印を戸につけた。同様に、この時代の神の子らは神の定められたしるしを持つようになる。彼らは自らを神の聖なる律法と調和させる。ヘブルの民を全面的

破滅から守るために、彼らの住居の戸に印がつけられたのとまったく同じように、神の民の一人ひとりに印が押される。神は『わたしは彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖化させる主であることを彼らが知ることができるためである』と宣言なさる。」(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホバ・コメント] 7 巻 968, 969)

「聖霊の働きは、罪と義とさばきについて、世の人の目を開くことである。世界は、真理を信じ、真理を通して聖化され、高尚で聖なる原則を実行し、高尚で高められた意味において、神の戒めを守る人々とそれらを自分たちの足で踏みじめる人々との間の境界線を示す人々を見ることによってのみ、警告を受けることができる。御霊の聖化は、神の印をもっている人々と偽の休息日を守っている人々の間にある違いを際立たせる。」(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホバ・コメント] 7 巻 980)

「神の民がその額に印されるや否や、一それは見ることができるような印や刻印ではなくて、彼らが動かされないように、知的に霊的に真理に定着することである一すなわち、神の民が印されて、ふるいのために備えられるや否や、それはおとずれる。実に、それはすでに始まっているのである。」(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホバ・コメント] 4 巻 1161)

特別な種類の人々

「主よ、あなたの幕屋にやどるべき者はだれですか、あなたの聖なる山に住むべき者はだれですか。直く歩み、義を行い、心から真実を語る者、その舌をもってそしらず、その友に悪をなさず、隣り人に対するそしりを取りあげず、その目は神に捨てられた者を卑しめ、主を恐れる者を尊び、誓った事は自分の損害になっても変えることなく、利息をとって金銭を貸すことなく、まいないを取って罪のない者の不利をはかることをしない人である。これらの事を行う者はとこしえに動かされることはない。」(詩篇 15:1 ～ 5)

「わたしは印をおされた者の数を聞いたが、イスラエルの子らのすべての部族のうち、印をおされた者は十四万四千人であつた。」(黙示録 7:4)

「〔黙示録 14:1 ～ 4 引用〕。この聖句は、神の民がこの終わりの時代のために持つ品性を表している。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 977)

「聖霊の強力な力が、人間の品性をまったく変える働きをなし、彼をキリスト・イエスのうちに新しい被造物とする。人が御霊に満たされるとき、彼は厳密にテストされ試されれば試されるほど、ますますキリストの代表であることをはっきりと立証する。魂のうちに宿る平安が表情に見られるようになる。言葉と行動は救い主の愛を表現する。最高の地位を争うことはなくなる。自己は放棄される。イエスのみ名は語られることとなされるすべてのことに記される。

わたしたちは聖霊の祝福について語るかもしれないが、わたしたちが聖霊を受けるために準備をしないならば、わたしたちの働きは何をなすことができるであろうか。わたしたちはキリストのうちにある徳の高さに至るために全力を尽くして努力しているであろうか。わたしたちはこのお方の満ち満ちた徳の高さを求めて、つねに目の前に置かれている目標—このお方のご品性の完全さを目指して前進しているであろうか。主の民がこの目標に到達するとき、彼らはその額に印されるのである。御霊に満たされて、彼らはキリストのうちに完全となる。そして記録する天使が『すべてが終わった』と宣言するのである。」(ビュ・アード・ヘルド 1902 年 6 月 10 日)

「生ける神の印を受ける人々だけが、聖都の門をくぐるパスポートを得るのである。しかし、神のみ働きに関連した責任を自ら負っていないながら、全心からの信者でない人々が多くいる。彼らがこの状態でいるかぎり、生ける神の印を受けることはできないのである。……

自分の額に神の印を受ける人々は、第四条の安息日を守る。これが彼らを真の安息日の代わりに人間の作った制度を受け入れる不忠実な人々から区別するのである。神の休息日の遵守は、神に仕える人と、神に仕えない人の間の区別の印である。

生ける神の印は、品性においてキリストに似たすがたを持つ人々だけに押される。

わたしたちは神がわたしたちに与えて下さった力をすべて尽くして、

十四万四千人のうちに入るよう努力しようではないか。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホバ・コメント] 7 巻 970)

はっきりとした区別

「彼らは民が来るようにあなたの所に来、わたしの民のようにあなたの前に座して、あなたの言葉を聞く。しかし彼らはそれを行わない。彼等は口先では多くの愛を現すが、その心は利におもむいている。」(エゼキエル 33:31)

「彼に言われた、『町の中、エルサレムの中をめぐり、その中で行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ人々の額にしるしをつけよ。』」(エゼキエル 9:4)

「世と肉と悪魔に打ち勝つ人々は、生ける神の印を受ける祝福された人々となる。清くない人々、その心が純潔でない人々は、生ける神の印を受けることがない。罪を企て、それを実行する人々は通り過ぎされる。ただ、この大贖罪の本体の日に、神のみ前の態度において、自分たちの罪を悔い改め、告白する立場を占めている人々だけが、神の保護を受けるのにふさわしいと認められ、しるしがつけられる。動かされることなく、自分の救い主の来臨を望み、待ち、見張っている人々一朝を待つ人より熱心に望みを持って待つ人々の名は、印される人々と共に数えられるようになる。自分たちの魂にひらめく真理の光をことごとくもっていながら、自分たちの誓った信仰に見合う働きをなすべきときに、罪に魅了され、自分の心のうちに偶像を打ち立て、自らの魂を神のみ前に墮落させ、罪のうちに自分と結合する人々を汚す人々は、その名前が命の書から除去され、自分たちのともし火の器に油がないまま、真夜中の闇のうちに取り残される。「わが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている」。

神の僕たちを印するこの働きは、エゼキエルが幻の中で示されたことと同じである。ヨハネもまたこの最も驚くべき啓示の証人となった。」(牧師への証 445)

「この時代に神の勧告のうちに立っているのはだれであろうか。事実上、神

の民だと公言する人々の間にある悪を言い訳し、罪を譴責する人々に対して、あからさまではないにしろ心のうちにつぶやいている人々であろうか。彼らに敵対し、悪を行っている人々に同情する立場をとる人々であろうか。断じてそうではない。彼らが悔い改めず、働きの重責を担っている人々を圧迫し、またシオンにいる罪人の手を高く掲げることによってサタンの働きをすることをやめないかぎり、彼らは決して神の是認のしるしを受けることがない。彼らは、五人の滅ぼす武器をもった人々の働きによって表されている悪人の全面的な破壊に陥るのである。次のことに注意しなさい。彼らのうちに聖霊の力によって働く真理の純潔な印、麻布を着た人による印によって象徴されている印を受ける人々は、教会の中で「行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ人々」である。純潔を愛し、神の誉れと栄光を愛する彼らの愛はこのようであり、彼らは罪のはなはだしい罪深さをはっきりと見ているために、苦悩し、嘆き悲しんでいる人々として象徴されている。エゼキエル九章を読みなさい。」(教会への証 3 巻 267)

「御使は罪と罪人から分離するすべての人の額に印を押すのである。そして、その後に滅びの天使が続ぎ、老若問わず完全に滅ぼす。」(教会への証 5 巻 505)

ルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を乱されたからである。主はそこから彼らを全地のおもてに散らされた」。

バベルの塔を建てていた人々は、非常にプライドが高かったので、もし彼らの計画(けいかく)が実行(じっこう)されていたら、地上をととも生きるのがむずかしい場所(ばしょ)にしてしまったことでしょう。これらの人々は神様に対して反逆(はんぎゃく)していました。ですから、もし彼らが自分たちの巨大な塔を完成(かんせい)していたら、全世界の「ボス」になろうとする彼らの利己的(りこてき)な態度(たいど)によって、たくさんの犯罪(はんざい)や苦(くる)しみが生(しょう)じたことでしょう。ですから、その時以来(ときらい)、「バビロン」という言葉は、「混乱」という意味になったのです。

みなさんは、聖書の真理について混乱している人に会ったことがありますか？彼らは、人は死んだらすぐに天国へ行くと主張(しゅちょう)しているかもしれません。あるいは、彼らは神様がご自分の聖(せい)なる休息(きゅうそく)の日を聖書の第七日目の安息日から変えたと言うかもしれません。聖書の真理をまちがった考えと混(ま)ぜようとすることによって、混乱が生じます。みなさんは混乱したことはありますか？それは良いことではありません。それより「道(みち)であり、真理(しんり)であり、命(いのち)である」イエス様についていくことは、どれほど良いことでしょう(ヨハネ 14:6)！神様のみ言葉がわたしたちの案内書(あんないしょ)であれば、混乱する必要(ひつよう)はありません。詩篇記者(しへんきしゃ)は、青年たちのためにすばらしい計画を与えています。「若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。み言葉にしたがって、それを守るよりほかにありません。わたしは心をつくしてあなたを尋ね求めます。わたしをあなたの戒めから迷い出させないでください。わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました」(詩篇 119:9-11)。混乱からは遠ざかっていようではありませんか。バビロンは倒れました。しかし、わたしたちはバビロンといっしょにみぞの中に落(お)ちる必要はないのです！

えごまのしょうゆ漬け

〔材料〕

えごまの葉	300 枚
しょうゆ	1 カップ
はちみつ	大さじ1
たまねぎ	1/2 個
たかの爪	適量
にんにく	1 片

〔作り方〕

1. えごまの葉をきれい洗って、水分をふき取ります。
2. たまねぎを細切りにします。
3. しょうゆと、はちみつと、にんにくと、細切りにしたたまねぎと、たかの爪を混ぜて、漬け汁を作ります。
4. えごまの葉を一枚おいては汁を少し入れ、次々に葉を重ねていきます。(すべての葉に漬け汁が行き渡るようにします)
5. 一晩冷蔵庫に寝かせたら、出来上がり。

ご飯と食べるとおいしいです。

冷蔵庫に入れておけば 1 カ月ほどもちます。

青じそでもお試しください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



混乱（こんらん）とは 倒（たお）れること

子どものみなさん、「バビロンは倒（たお）れた」というのを聞いたことがありますか？どういう意味でしょうか。

バビロンというのは、歴史書（れきししょ）や聖書（せいしょ）に書いている古代都市（こだいとし）です。「バビロン」という名前は、バベルの塔（とう）からきています。創世記 11:1-9 に書いてある話をおぼえているかもしれませんね。

「全地（ぜんち）は同じ発音（はつおん）、同じ言葉（ことば）であった。時に人々は東に移（うつ）り、シナルの地に平野（へいや）を得（え）て、そこに住（す）んだ。彼らは互（たがい）に言った、『さあ、れんがを造（つく）って、よく焼（や）こう』。こうして彼らは石の代（かわ）りに、れんがを得（え）、しっくい（しっくい）の代りに、アスファルトを得（え）た。彼らはまた言った、『さあ、町（まち）と塔（とう）とを建（た）てて、その頂（いただき）を天（てん）に届（とど）かせよう。そしてわれわれは名（な）を上げて、全地（ぜんち）のおもてに散（ち）るのを免（まぬか）れよう』。時に主（しゅ）は下（くだ）って、人の子（こ）たちの建（た）てる町（まち）と塔（とう）とを見て、言（い）われた、『民（たみ）は一つ（いつ）で、みな同じ言葉（ことば）である。彼らはすでにこの事（こと）をしはじめた。彼らがしようとす（する）る事は、もはや何（なん）事（こと）（なに）ごと）もとどめ得（え）ないであろう。さあ、われわれは下（くだ）って行（い）って、そこで彼（か）らの言（い）言葉を乱（みだ）し、互（たがい）に言（い）言葉（ことば）が通（つう）じないようにしよう』。こうして主（しゅ）が彼（か）らをそこ（そこ）から全地（ぜんち）のおもてに散（ち）らされたので、彼（か）らは町（まち）を建（た）てるのをやめた。これによってその町（まち）の名（な）はバベ

